

看護学科 学生シラバス

令和3年度



小林看護医療専門学校

目 次

1. 教育理念・教育目的・教育目標	P 1
2. 期待される卒業生像	P 2
3. カリキュラム	P 3
4. 基礎分野の科学的思考の基盤	P 4
5. 基礎分野の人間と生活、社会の理解	P 9
6. 専門基礎分野の人体の構造と機能	P 17
7. 専門基礎分野の疾病の成り立ちと回復促進	P 22
8. 専門基礎分野の健康支援と社会保障制度	P 32
9. 専門分野Ⅰの基礎看護学	P 38
10. 専門分野Ⅰの臨地実習	P 48
11. 専門分野Ⅱの老年看護学	P 50
12. 専門分野Ⅱの成人看護学	P 54
13. 専門分野Ⅱの母性看護学	P 63
14. 専門分野Ⅱの小児看護学	P 67
15. 専門分野Ⅱの精神看護学	P 71
16. 専門分野Ⅱの臨地実習	P 75
17. 統合分野の在宅看護論	P 83
18. 統合分野の看護の統合と実践	P 87
19. 統合分野の臨地実習	P 91

教育理念

専門職としての実践能力の育成
人間としての品格を身につけた医療職の育成
社会の変化をとらえ、貢献できる能力の育成

教育目的

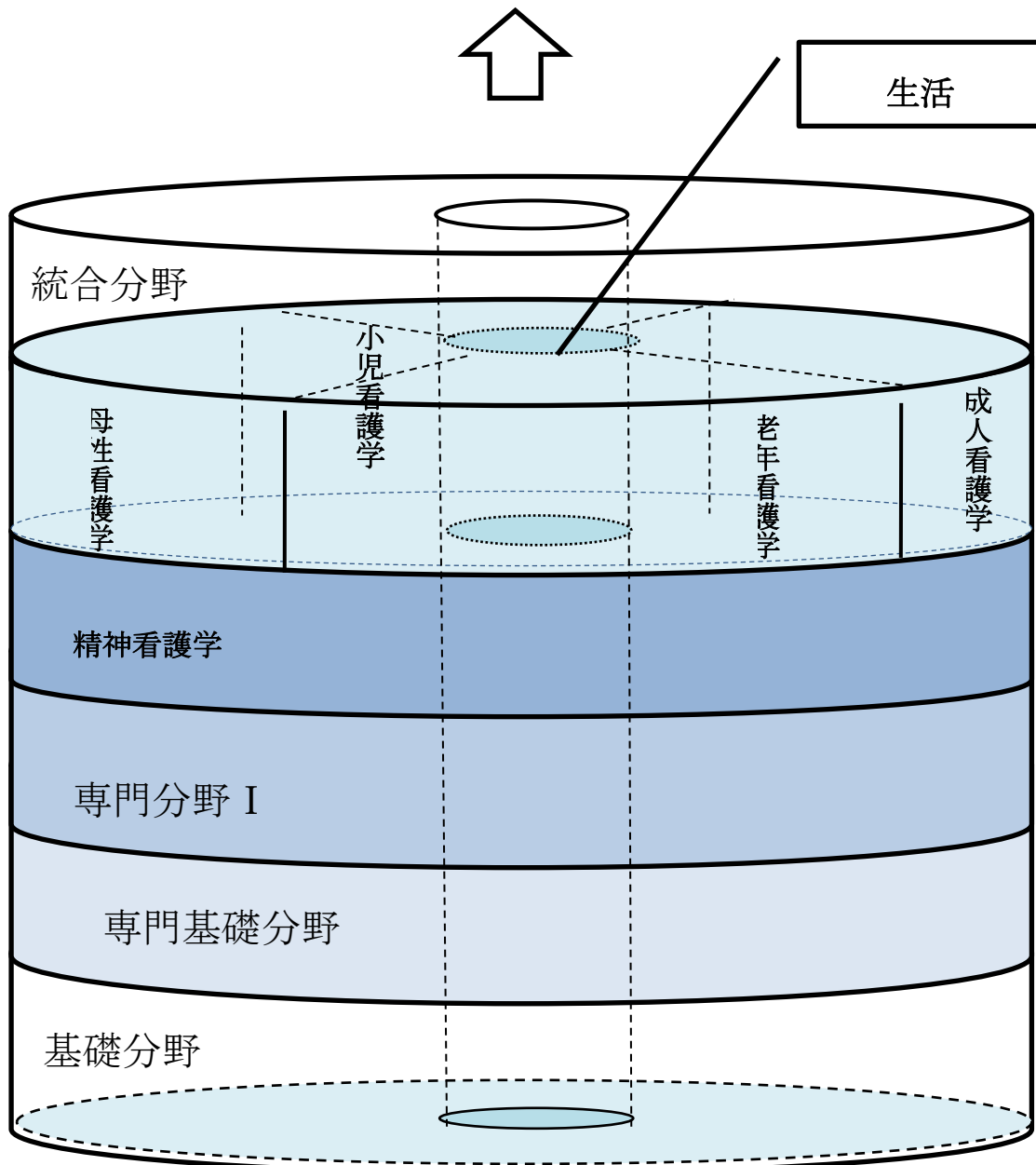
1. 医療に必要な知識・技術・こころ・態度・意志力を修得し、人々の健康上の問題に対応できる基礎的能力を育成する。
2. 人間としての品格をもち、人と接することができる豊かな人間性を涵養する。
3. 社会の多様な要請に対応しうる実践者を育成する。

教育目標

- ① 看護の対象であるその人を全人的にとらえ、生活する人として理解する能力を養う。
- ② 人々の健康上の問題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- ③ 豊かな感性で多様な価値観をもつ人々とコミュニケーションができる能力を養う。
- ④ 機能障害が生活にあたえる影響に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。
- ⑤ 人々のその時々々の要請に対応し、安全・安楽な看護を実践できるための基礎的能力を養う。
- ⑥ 保健・医療・福祉制度と他職種との役割を理解し、チーム医療を実践するとともに、人々が社会資源を活用できるよう、それらを調整するために基礎的能力を養う。
- ⑦ 専門職業人として、自己研鑽と社会の発展のために専門性の高い看護を追求し続ける姿勢を養う。

期待される卒業生像

1. 対象を全人的にとらえ、生活する人として理解
2. 人間と環境との相互作用でつくられる健康の理解
3. 健康状態に応じた看護を実践できる基礎的能力
4. 科学的根拠に基づいた看護の展開と安全・安楽の保障
5. 多様な価値観や文化をもつ様々な年齢の人々とのこころのコミュニケーション
6. 対象への尊厳を根底に倫理的判断で状況に応じた行動選択
7. 組織における役割の理解と適切な行動
8. 看護チーム及び保健医療福祉チームにおける立場の明確化と協働
9. 継続した看護追究と、社会に貢献する姿勢
10. 自己省察的思考に基づいた反省的実践家



教育課程及び授業時数・単位数〔看護学科〕

区分	教育内容	授業科目	必修・ 選択の別	履修年次別時数・単位数						合計	
				1年次		2年次		3年次			
				授業時数	単位数	授業時数	単位数	授業時数	単位数	授業時数	単位数
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	必修	30	1					30	1
		法学	必修	30	1					30	1
		倫理学	必修			30	1			30	1
		教育学	必修			30	1			30	1
		情報科学	必修	30	1					30	1
	人間と生活、 社会の理解	心理学	必修	30	1					30	1
		カウンセリング論	必修			30	1			30	1
		社会学	必修			30	1			30	1
		英会話	必修	30	1					30	1
		英語講読	必修			30	1			30	1
		健康スポーツ学	必修	30	1					30	1
		音楽	必修	30	1					30	1
		人間関係論	必修	30	1					30	1
		解剖生理学 I	必修	30	1					30	1
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学 II	必修	30	1					30	1
		解剖生理学 III	必修	30	1					30	1
		解剖生理学 IV	必修	30	1					30	1
		生化学	必修	30	1					30	1
	疾病の成り立ちと 回復の促進	病理学	必修	30	1					30	1
		疾病治療論 I	必修	30	1					30	1
		疾病治療論 II	必修	30	1					30	1
		疾病治療論 III	必修	30	1					30	1
		疾病治療論 IV	必修	30	1					30	1
		疾病治療論 V	必修	30	1					30	1
		疾病治療論 VI	必修			30	1			30	1
		栄養学	必修	30	1					30	1
	健康支援と 社会保障制度	微生物学	必修	30	1					30	1
		薬理学	必修	30	1					30	1
総合医療論		必修	15	1					15	1	
公衆衛生		必修			15	1			15	1	
社会福祉		必修			30	1			30	1	
関係法規		必修			30	1			30	1	
専門分野 I	基礎看護学	リハビリテーション療法	必修			15	1			15	1
		健康科学論	必修	15	1					15	1
		看護学概論	必修	30	1					30	1
		看護研究理論	必修			15	1			15	1
		看護研究演習	必修					30	1	30	1
		基礎看護技術 I	必修	30	1					30	1
		基礎看護技術 II	必修	30	1					30	1
		基礎看護技術 III	必修	45	2					45	2
		基礎看護技術 IV	必修	30	1					30	1
		基礎看護技術 V	必修	30	1					30	1
	臨地実習	基礎看護技術 VI	必修	30	1					30	1
		基礎看護学実習 I	必修	45	1					45	1
		基礎看護学実習 II	必修			90	2			90	2
		老年看護学	必修	30	1					30	1
専門分野 II	老年看護学	老年看護学概論	必修	30	1					30	1
		老年看護学援助論 I	必修			30	1			30	1
		老年看護学援助論 II	必修			15	1			15	1
	成人看護学	老年看護学援助論 III	必修			15	1			15	1
		成人看護学概論	必修	30	1					30	1
		成人看護学援助論 I	必修	30	1					30	1
		成人看護学援助論 II	必修	30	1					30	1
		成人看護学援助論 III	必修			30	1			30	1
		成人看護学援助論 IV	必修			30	1			30	1
	母性看護学	成人看護学援助論 V	必修			30	1			30	1
		母性看護学概論	必修			30	1			30	1
		母性看護学援助論 I	必修			30	1			30	1
	小児看護学	母性看護学援助論 II	必修			30	1			30	1
		母性看護学援助論 III	必修			15	1			15	1
小児看護学概論		必修			30	1			30	1	
精神看護学	小児看護学援助論 I	必修			15	1			15	1	
	小児看護学援助論 II	必修			30	1			30	1	
	小児看護学援助論 III	必修			15	1			15	1	
臨地実習	精神看護学	小児看護学援助論 III	必修	30	1					30	1
		精神看護学概論	必修			30	1			30	1
		精神看護学援助論 I	必修			15	1			15	1
	臨地実習	精神看護学援助論 II	必修			15	1			15	1
		精神看護学援助論 III	必修			15	1			15	1
		老年看護学実習 I	必修			90	2			90	2
		老年看護学実習 II	必修			90	2			90	2
		成人看護学実習 I	必修					90	2	90	2
		成人看護学実習 II	必修					90	2	90	2
		成人看護学実習 III	必修					90	2	90	2
		母性看護学実習	必修					90	2	90	2
		小児看護学実習	必修					90	2	90	2
		精神看護学実習	必修					90	2	90	2
		統合分野	在宅看護論	在宅看護学実習	必修					90	2
在宅看護学概論	必修					30	1			30	1
在宅看護学援助論 I	必修					15	1			15	1
在宅看護学援助論 II	必修					30	1			30	1
看護の統合と実践	在宅看護学援助論 III		必修			15	1			15	1
	看護管理・医療安全		必修					30	1	30	1
	災害看護		必修			15	1			15	1
臨地実習	臨床看護の実践		必修					30	1	30	1
	国際看護		必修			15	1			15	1
	在宅看護論実習		必修					90	2	90	2
看護の統合と実践実習	必修					90	2	90	2		
合計			1110	38	1080	40	810	19	3000	97	

基礎分野

科学的思考の基盤

- 論理学
- 法学
- 倫理学
- 教育学
- 情報科学

科目区分	基礎分野			科目番号	0101	曜日時間	木曜日
授業科目	論 理 学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義
担当教員	藤本 朋美						
授業目的	専門職として論理的な理解能力・思考能力・表現能力を身につけるために、論理的思考を組み立てる方法を学ぶ。						
授業目標	1. ロジカルシンキングの意味を理解する。 2. 論理的な思考の法則を学ぶ。 3. 自分の考えを、正しい日本語で表現できる力を磨く。 4. 情報から論理的にものごとを考え、それを人に論理立てて説明する力を養う。 5. 文献や思考を批判的に考察する方法を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	論理能力と思考能力の意味と必要性 ロジカルシンキングとは 接続の論理（1）時間レベルの接続 接続の論理（2）抽象・可能レベル 接続の論理（3）立論・話題レベル 議論の組み立て（1）根拠の組み立て 議論の組み立て（2）三段論法 論証の構造と評価（1） 論証の構造と評価（2） 論証の構造と評価（3） 演繹と推測（1） 演繹と推測（2） 批判の視点（1）質問 クリティークの考え方 批判の視点（2）異論と批判	講義 演習	30	藤本 朋美		
終了後課題							
評価計画方法	レポート内容・授業態度						
テキスト参考図書	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科著:はじめよう,ロジカル・ライディング, ひつじ書房						
備考							

科目区分	基礎分野			科目番号	0102	曜日時間	月曜日
授業科目	法 学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	倉爪 真一郎						
授業目的	「すべて国民は、個人として尊重される」（日本国憲法第13条）。これが「基本的人権の尊重」の根本にある思想です。生身の人間である患者と接するとき、その人を「個人として尊重」しているか。看護学生としての実践に入る前に、この問いを常に意識できるようにすることが授業の目的です。						
授業目標	1. 法に従うこと、自由に生きること、権利を侵害されることについて考える。 2. 自分のことを自分で決められる人の自由、人の助けを借りなければ生きられない人の自由について考える。 3. 患者の権利が守られるためには、医療従事者の労働環境が充実していなければならない。労働者としての看護師の権利、家族と子育てをめぐる法制度について考える。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	1	法に従うことと自由に生きること	講義	2	倉爪 真一郎		
	2	個人とは何か：個人の尊厳	講義	2			
	3	自己決定と同意	講義	2			
	4	権利の侵害とそのダメージ	講義	2			
	5	思想・良心の自由と教育：子どもの権利	講義	2			
	6	労働と貧困	講義	2			
	7	病院に行けない：社会権	講義	2			
	8	看護師の働き方と過労死	講義	2			
	9	原発事故のその後：除染作業はどこまで進んだのか	講義	2			
	10	在日米軍基地は必要か：新田原基地の武器弾薬庫	講義	2			
	11	高齢者の住む権利	講義	2			
	12	少子化対策から子育て支援へ	講義	2			
	13	フィンランドの子育て支援	講義	2			
	14	児童虐待	講義	2			
	15	病児保育とレスパイトケア	講義	2			
終了後課題	授業で取り上げた内容からテーマを決めて、レポートを書く（2000字以上）。						
評価計画方法	レポート（80%）、平常点・授業態度（20%）。						
テキスト参考図書	テキストは使いません。毎回レジュメ・資料を配布。参考文献は、授業中に示します。						
備考							

科目区分	基礎分野			科目番号	0103	曜日時間	木曜日
授業科目	倫 理 学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	中別府 温和						
授業目的	人間を理解し、集団や組織における人としての判断基準を学び、看護を実践する時の内的規範を理解する。						
授業目標	1. 倫理学とは何かについて理解できる。 2. 人間を理解し、内的規範の意味を知る。 3. 現代に特有の倫理的なテーマについての理解を深める。 4. 実践の場で発揮できる倫理的な判断力を深める。 5. 個々のテーマについて読解を進める中で、倫理を活用して論理的に考える。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. 「哲学・倫理学」に求められている「知」とは何か －「倫理学」を学ぶときの基本的な態度と方法－ 2. 「わたしが生きている」ということ －このことをどこからどのように問うことができるか－ 3. 「吟味のない生活というものとは人間の生きる生活ではない」 －この発言の問うた意味はどこからどのように明らかにすることができるか－ 4. 「知らないのに何か知っているように思っている」 －「知を愛し求めつづけて生きる」ということの意味は何か－ 5. 「自分にとってよいと思われること」をしている自分と 「自分が本当にのぞんでいること」をしている自分 －「目に見えること」と「目に見えないこと」－ 6. 「よいというそのこと」と「よいとは何か」という問い －「自然法」のもつ「倫理学」的意味とは何かの検討も含めて－ 7. 「目的」と「手段」という考え方のほらむ問題 －「よいとされることを為せ」と「よい人になれ」との相違－ 8. 中間のまとめ 9. 「内的で絶対的な自由」と倫理的であることについて －「忠実な家来の偽証」をめぐる譬えの再検討－ 10. 「わたしの生を律しているもの」をどこからどのように問うことができるのか －義務とは何か－ 11. 「何のために」という問いへの最終的な答えとしての幸福 －「わたしは幸福である」という実感は経験を根拠としている－ 12. 「義務であると同時に目的でもあること」とは何か －「目的を達成する手段」と「目的そのもの」という考え方－ 13. 「内なる自由」と「意志」 －「それ自体としてよいかわるいか」と問われること－ 14. 「倫理的である」ということはどのようなことか －「わたしたちはその人を尊敬しているのではなく、その人が打ち立てた倫理的な態度と方法を尊敬している」－ 15. まとめ	講義	30	中別府 温和		
終了後課題	各講義の最終場面で15分程度グループディスカッションを行います。各グループの代表がそのディスカッションの概要を発表しますが、その内容をめぐる意見交換を講義内容の理解と定着に役立てます。						
評価計画方法	授業中の態度（出席および担当教員との意見交換などを含む）（40%）、グループディスカッションのグループワーク（30%）、試験（30%）で総合的に評価します。						
テキスト 参考図書	テキストは使用しません。 テキストに代わる講義資料は各回配布します。						
備考	上記「授業目標」3に書かれている現代に特有の倫理的テーマは、随時、授業中に提示します。 「中間のまとめ」「まとめ」は受講生と担当教員による講義内容をめぐる意見交換が主な目的です。						

科目区分	基礎分野			科目番号	0104	曜日時間	金曜日
授業科目	教 育 学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義
担当教員	山田 裕司						
授業目的	意図的な人間形成作用としての教育の目的や方法を学ぶ。 学習指導や生活指導の原理を活用することで、看護の指導技術や自己研鑽に活用する。						
授業目標	1. 教育が人の生活に深く関わっていることを理解できる。 2. 教育の基本・理念を学び、看護に活かす能力を身につける。 3. 自己を知ること、教育の意味を考え、自分の学習姿勢を身につける。 4. 教育の原理を知ること、学習者の心理を理解し、指導技術に活用できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	学習者としての自分自身について 学習に対する自分の姿勢を考察する 人間の成長と教育の意義 自分の学習姿勢との比較 看護と教育 指導教育の効果的方法 家庭教育 生涯学習支援の社会教育①生涯学習社会への移行と社会教育 リカレント教育と継続教育 生涯学習支援の社会教育②社会教育の領域 生涯学習支援の社会教育③生涯各期の学習を支援する社会教育 学校教育の制度 教育の目的 学習指導 生活指導 教育評価 特別支援教育の推進① 特別支援教育の推進②	講義	30	山田裕司		
終了後課題	自分自身の学習姿勢を見つめ、教育に対して考察する						
評価計画方法	筆記試験・レポート内容・授業態度						
テキスト参考図書	荒川智 新体系 看護学全書 基礎科目 教育学 メヂカルフレンド社						
備考							

科目区分	基礎分野			科目番号	0105	曜日時間	水曜日
授業科目	情報科学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	鬼束 祐子						
授業目的	看護におけるパーソナルコンピュータの基礎を学び、それを活用して客観的情報の意味を判断し、考察する論理的思考の基礎を学ぶ。						
授業目標	1. 看護における情報の処理の意義、重要性を理解できる。 2. パーソナルコンピュータによるデータの統計的処理の仕方を学ぶ。 3. データ管理について学ぶ。 4. 統計の解釈の仕方について学ぶ。 5. 客観的情報を活用して、その意味を考察できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	情報科学の意味 パーソナルコンピュータの活用 ワードと文章 パーソナルコンピュータに慣れる。 客観的情報とパーソナルコンピュータ エクセルの活用方法、セルの活用 表の作成、数式の挿入 客観的情報の統計処理について 情報とは、統計とは 情報の管理と情報の分析の意味 統計学とは 記述統計学と推定統計学 統計的仮説検定とは 意味と必要性、種類 統計的仮説検定 尺度の性質 危険率・有意確率 標本の推定 仮説（帰無仮説と対立仮説） 相関係数、t検定、回帰分析 統計情報を活用し、実際に統計処理をする。 エクセルでできる活用法 表の作成、初歩的統計処理・エクセルで処理 検定とその解釈 結果の発表（プレゼンテーション）	講義 演習	30	鬼束 祐子		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・作成した検定と結果						
テキスト参考図書	実教出版企画開発部 編：30時間でマスター Word&Excel2019 (Windows10対応)						
備考							

基礎分野

人間と生活、社会の理解

- 心理学
- カウンセリング論
- 社会学
- 英会話
- 英語講読
- 健康スポーツ学
- 音楽
- 人間関係論

科目区分	基礎分野			科目番号	0201	曜日時間	夏季集中
授業科目	心 理 学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義
担当教員	安東 桃子						
授業目的	心理学の基礎的知識を修得することで、看護の対象である人間の心や行動のメカニズムを知り、多面的な理解を深め、心理学的視点を持つことを目的とする。						
授業目標	1. 人間の心理や行動のメカニズムとその発達について理解を深める。 2. 人間関係の基本的な心理状況や社会背景について理解を深める。 3. 心理学を学ぶことで自己理解を深め、社会適応や人間関係についての傾向を知る。 4. 対象の心理的、潜在的欲求を理解する能力を身につける。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	生き方を支える心の基本機能 感覚・知覚 生き方を支える心の基本機能 認知・思考 生き方を支える心の基本機能 学習 生き方を支える心の基本機能 記憶 生き方を支える心の基本機能 感情・欲求 ライフサイクルと生き方 各発達段階の特徴と課題 ライフサイクルと生き方 各発達段階の特徴と課題 ライフサイクルと生き方 親子関係・仲間関係 生き方の危機 発達過程での危機 生き方の危機 日常生活の中の心の問題 生き方の危機のアセスメント 心理テスト 生き方の危機のアセスメント 臨床で生かすアセスメント 生き方の危機への支援	講義	30	安東 桃子		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	安東末廣編著：生き方支援の心理学，北大路書房						
備考							

科目区分	基礎分野			科目番号	0202	曜日時間	水曜日
授業科目	カウンセリング論						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	首藤 啓介						
授業目的	カウンセリングの原理と技法の基盤を学び、自己・他者理解を積極的に行い看護の場面に活かす能力を身につける。						
授業目標	1. カウンセリングの目的を理解できる。 2. カウンセリング理論の基本と技術を学ぶ。 3. 看護の場面で、患者・家族へ活用できる基本的技術を身につける。 4. 人間関係を構築し、精神的な欲求を表出する技術を活用できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	カウンセリングとは カウンセリングの歴史と人間観 精神分析療法 精神分析療法と看護 ユング派の心理療法 ユング派とは？ 心理療法について 来談者中心療法 交流分析と看護 交流分析とは？ 具体的方法と分析方法 認知療法 看護場面におけるカウンセリングの実際 カウンセリング技術 信頼関係の構築方法 看護とカウンセリング カウンセリングの実際	講義	30	首藤 啓介		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・レポート内容・授業態度						
テキスト参考図書	杉原 一昭他著：はじめて学ぶ人の臨床心理学, 中央法規出版						
備考							

科目区分	基礎分野			科目番号	0203	曜日時間	金曜日
授業科目	社 会 学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義
担当教員	山田 裕司						
授業目的	社会学の基礎概念から社会的視点とモデルを学び、健康と社会の関連性を理解することで地域の保健医療について考察する。						
授業目標	1. 社会学の基礎概念を学ぶ。 2. 社会調査の理論と技法を学ぶ。 3. 健康が社会とどのように関連しているか、モデルを用いて理解できる。 4. 社会の中で健康維持のための保健医療制度のあり方を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	社会学：健康、病気、医療への視座 社会学の基礎概念 社会的視点とモデル 保健医療と社会学 社会調査の理論と技法 健康・病気と社会 健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方 健康・病気の社会格差 「はたらき方」「はたらかせ方」と健康・病気 保健医療における行為・関係・組織・制度 健康・病気の行動と病経験 患者-医療者関係とコミュニケーション 保健医療の専門職 性・ジェンダー・家族と保健医療 地域社会と保健医療 保健医療制度 保健医療の現代的課題 保健医療の現代的変化の位相	講義	30	山田裕司		
終了後課題							
評価計画方法	レポート内容・授業態度						
テキスト参考図書	石川 ひろの著：社会学，医学書院						
備考							

科目区分	基礎分野			科目番号	0204	曜日時間	金曜日
授業科目	英 会 話						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	Kirill Khan						
授業目的	英語圏の人々と会話ができ、人間関係をつくる基礎を学ぶ。 国際化に対応できるよう英語によるコミュニケーション能力を身につける。						
授業目標	1. 世界共通語としての英語を身につけ、看護専門職の仕事に役立たせるための基礎を養う。 2. 英会話のスキルを確立し、英会話の能力を養う。 3. 英語を学ぶことでグローバルな視点と、国際感覚を身につける。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	基本会話編（日常会話） あいさつの場面、返答の場面（はいといいえ） 聞き取りにくいときの場面、買い物の場面 場面別会話編：病院の外来 受付時の場面（問診や診察室） 外国の医療現場に必要な会話、医療や看護に関する語句、専門用語と一般的に理解できる言語化 場面別会話編：病棟 入院時の患者との会話、病棟のオリエンテーション、病状や訴えを聞く、処置を行う時の声掛け、急変時の対応、相談の時、食事指導や生活指導 実際に場面設定をして会話をしてみよう まとめ（医学に必要な英語）・評価	講義 演習	30	Kirill Khan		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・レポート内容・授業や演習態度						
テキスト参考図書	知念クリスティーン・上瀧真紀恵著：クリスティーンのやさしい看護英会話，医学書院						
備考							

科目区分	基礎分野			科目番号	0205	曜日時間	金曜日
授業科目	英 語 講 読						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	Kirill Khan						
授業目的	健康に関する英語を理解することで、看護の国際感覚を身につけることができる。						
授業目標	1. 生活に身近な英語を活用することができる。 2. 医療や健康等に関する語彙力向上と医療現場に必要な表現を知る。 3. 看護の国際感覚について考える。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	導入（授業の進め方、予習の仕方、評価について） 1 困った時の英語／診療科名／患者の基本情報 2 診療手続き／症状 3 入院時オリエンテーション 4 病歴の聴取／病名 5 検査 6 産婦人科 7 小児科／予防接種 8 手術 9 術後／日常看護 10 心のケア／文化や宗教の違い グループ発表の準備 グループ発表（1） グループ発表（2）	講義 演習	30	Kirill Khan		
終了後課題							
評価計画方法	予習・積極的な授業参加・筆記試験						
テキスト参考図書	知念クリスティーン/迫和子著：クリスティーンのレベルアップ看護英会話，医学書院						
備考							

科目区分	基礎分野			科目番号	0206	曜日時間	火曜日
授業科目	健康スポーツ学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義実技
担当教員							
授業目的	健康の保持・増進のため、また、生活を豊かにするための運動やスポーツの役割と方法を理解する。						
授業目標	1. 健康生活を支える運動の意義を理解し、個人及び集団の健康づくりに活かす。 2. 運動活動に参加し、心身をリフレッシュさせる方法を学ぶ。 3. 健康な身体が生活を豊かにすることを学ぶ。 4. 健康な身体とところは関連しており、豊かな感性を育むことを理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. 加齢とからだ 1) 加齢とからだの変化 2) 加齢とトレーナビリティ 2. 定期的な運動の実践 1) 運動の種類・動きの種類 2) 運動処方とは 3. 運動の効果 実際に動いてみる 4. 運動とスポーツ 1) スポーツ障害 2) 機能障害と看護 5. スポーツ・レクリエーション 1) レクリエーションゲーム 2) ストレッチ、ウォーキング 3) エアロビク 4) 卓球 5) フライングディスク 6) ニュースポーツ	講義 実技	30			
終了後課題							
評価計画方法	授業態度・演習評価						
テキスト参考図書	資料						
備考							

科目区分	基礎分野			科目番号	0207	曜日時間	金曜日
授業科目	音 楽						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	岩切 理香						
授業目的	1. 音楽に関する基礎的知識を学ぶ。 2. 鑑賞力、自己表現能力を磨き、感性を高めるとともに音楽療法に活用する。						
授業目標	1. 楽しみながら音楽への親しみや理解を深め豊かな感性を身につける。 2. 医療や障害児教育の中で、治療や障害の克服のために活用する音楽療法の基礎知識を身につける。 3. コーピングの1つの方法として、音楽の目的・意味を探求する。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	授業内容の説明、リズム① リズム②、メロディー、ハーモニー 音楽の形式 ①変奏曲形式 音楽の形式 ②ソナタ形式 楽譜の歴史 図形楽譜 音楽と他の芸術との関わり① 音楽と他の芸術との関わり② 音楽と他の芸術との関わり③ 音楽と他の芸術との関わり④ 音楽療法と療法的音楽活動 療法的音楽活動の実践① 療法的音楽活動の実践② 療法的音楽活動の実践③ 療法的音楽活動の実践④	講義 演習	30	岩切 理香		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・実技試験（希望者）・授業態度						
テキスト参考図書	早川 和子著：改訂音楽，メヂカルフレンド社						
備考	11月～12月の授業内容の中に、クリスマス会練習を含む。						

科目区分	基礎分野			科目番号	0208	曜日時間	水曜日
授業科目	人間関係論						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	首藤 啓介						
授業目的	社会的相互作用として、人間関係を形成するための知識とスキルを学ぶことで、看護の質を向上させるための方法を理解する。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の基本的意義ととらえ方を学ぶ。 2. 社会的相互作用と役割について学ぶ。 3. 人間関係の向上のためのスキルを理解できる。 4. 対象であるその人への接近方法を理解できる。 5. 家族との専門的な関わりが理解できる。 6. ソーシャルサポートとノーマライゼーションを理解できる。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	人間関係論とは 人間存在と人間関係 社会的相互作用と社会的役割 コミュニケーションとは 人間関係の研究と応用 人間関係の向上へのスキル体験学習プログラム 保健医療チームの人間関係 闘病生活を支える人間関係 終末期の患者と家族を支える人間関係 家族の人間関係と看護師の関わり ソーシャルサポートをめぐる人間関係 ノーマライゼーションを育む人間関係 演習やロールプレイング、グループ学習	講義	30	首藤 啓介		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	長谷川 浩他著：人間関係論，医学書院						
備考							

専門基礎分野

人体の構造と機能

- 解剖生理学Ⅰ
- 解剖生理学Ⅱ
- 解剖生理学Ⅲ
- 解剖生理学Ⅳ
- 生化学

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0301	曜日時間	月曜日
授業科目	解剖生理学 I						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義
担当教員	菱川 善隆						
授業目的	「食べる」「トイレに行く」ための人体の正常な形態と構造、およびそれぞれの役割とはたらきについて学ぶ。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する細胞、組織、器官のしくみを知り、人間がもっている生命維持機能についての概要が分かる。 2. 日常生活行動の「食べる」の身体機能として、栄養の摂取から消化・吸収・代謝の器官の構造とはたらきを学び、生命維持における栄養摂取の意義が分かる。 3. 日常生活の「トイレに行く」の身体のはたらきは、「食べる」行動の後の排泄過程に携わる器官の構造とはたらきであることを学び、生命維持に関連していることが分かる。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	14	人体の構造と機能とは何か 解剖生理学の基礎知識 A 人体とは？ B 人体の素材である細胞・組織 C 構造とはたらきからみた人体 「食べる」の機能（栄養の消化と吸収と代謝） A 口・咽頭・食道の構造とはたらき B 腹部消化管の構造とはたらき 胃・十二指腸・小腸・大腸 C 膵臓・肝臓・胆嚢の構造とはたらき D 腹膜 「トイレに行く」の機能（体液の調節と尿の生成） A 腎臓 身体構造とはたらき B 排尿路 C 体液の調節 酸塩基平衡・恒常性機能	講義	28	菱川 善隆		
	1	まとめ・評価	講義・試験	2			
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	坂井 建雄他著：解剖生理学，医学書院 坂井 建雄他著：解剖生理学ワークブック「系統看護学講座」準拠 佐藤達夫著：からだの地図帳，講談社						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0302	曜日時間	月曜日
授業科目	解剖生理学Ⅱ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義
担当教員	菱川 善隆						
授業目的	「息をする」「恒常性維持の物の流れ」の人体の正常な形態と構造、およびそれぞれの役割とはたらきについて学ぶ。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 日常生活行動の「息をする」の身体機能で、酸素の取り込み、需要・供給における呼吸の構造とはたらきを学び、生命維持における呼吸の意義が分かる。 身体内部の「恒常性維持の物の流れ」で、循環の構造とはたらきを学び、生命維持における循環の意義が分かる。 身体の内部環境の物質の運搬を司る血液、造血や止血の機能を学び、生命維持における血液の役割やはたらきが分かる。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	14	「息をする」の機能（呼吸と血液） A 呼吸器の構造 B 呼吸 身体構造 はたらきとしくみ 酸塩基平衡 C 血液 酸素と物質運搬 「恒常性維持の物の流れ」の機能 （血液の循環と調節） A 循環器系の構成 B 心臓の構造 心臓の血管と神経 C 心臓の拍出機能 心電図と不整脈 前負荷後負荷・心雑音 D 末梢循環系の構造 動脈と静脈 E 血液の循環の調節 血圧・循環器系の病態生理 F リンパとリンパ管	講義	28	菱川 善隆		
	1	まとめ・評価	講義・試験	2			
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	坂井 建雄他著：解剖生理学，医学書院 坂井 建雄他著：解剖生理学ワークブック「系統看護学講座」準拠 佐藤達夫著：からだの地図帳，講談社						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0303	曜日時間	月曜日
授業科目	解剖生理学Ⅲ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	菱川 善隆						
授業目的	「動く」「活動する」「話す・聞く」ための人体の正常な形態と構造、およびそれぞれの役割とはたらきについて学ぶ。						
授業目標	1. 日常生活行動の「眠る」「動く」「活動する」を司る臓器の構造とはたらきについて学び、メカニズムとその役割について理解する。 2. 日常生活行動と内部環境のすべてを統合支配する脳の構造とはたらきについて学び、メカニズムとその役割について理解する。 3. 日常生活行動の「話す・聞く」情報として感覚を司る器官の構造とはたらきについて学び、メカニズムとその役割について理解する。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	14	「動く」の機能（からだの支持と運動） A 骨格とはどのようなものか B 骨の連結 C 骨格筋 D 体幹の骨格と筋 E 上肢の骨格と筋 F 下肢の骨格と筋 G 頭頸部の骨格と筋 H 筋の収縮 「活動する」「話す・聞く」の機能（情報の受容と処理） A 神経系の構造とはたらき B 脊髄と脳 C 脊髄神経と脳神経 D 脳の高次機能 E 運動と下行伝導路 F 感覚と上行伝導路 G 眼の構造と視覚 H 耳の構造と聴覚・平衡覚 I 味覚と嗅覚と疼痛（痛み）	講義	28	菱川 善隆		
	1	まとめ・評価	講義・試験	2			
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	坂井 建雄他著：解剖生理学，医学書院 坂井 建雄他著：解剖生理学ワークブック「系統看護学講座」準拠 佐藤達夫著：からだの地図帳，講談社						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0304	曜日時間	月曜日
授業科目	解剖生理学Ⅳ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	菱川 善隆						
授業目的	「恒常性維持の調節」「衣類を整える」「子どもを産み育む」の人体の正常な形態と構造、およびそれぞれの役割とはたらきについて学ぶ。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 人間の身体を守っている皮膚の構造とはたらきについて学び、日常生活行動の「恒常性維持の調節」、身体メカニズムと日常生活における役割について理解する。 侵入してきた外敵に対する生体防御機構のしくみを学び、メカニズムと日常生活における役割について理解する。 「衣類を整える」生活行動に関して、生体内外の環境の変化に対する諸臓器の調節機能の構造とはたらきについて学び、メカニズムと日常生活における役割について理解する。 次の世代の個体を生み出して種を維持する「子どもを産み育む」身体機能として、生殖の構造とはたらきについて学び、メカニズムとその役割について理解する。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	14	「恒常性維持の調節」の機能（内臓機能の調節） A 自律神経による調節 B 内分泌系による調節 C 全身の内分泌腺と内分泌細胞 D ホルモン分泌の調節 E ホルモンによる調節の実際 「衣類を整える」の機能（外部環境からの防御） A 皮膚の構造と機能 B 生体の防御機構 C 体温とその調節 「子どもを産み育む」（生殖・発生と老化） A 男性生殖器 B 女性生殖器 C 受精と胎児の発生 D 成長と老化 体表からみた人体の構造 身体機能と日常生活行動	講義	28	菱川 善隆		
	1	まとめ・評価	講義・試験	2			
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	坂井 建雄他著：解剖生理学，医学書院 坂井 建雄他著：解剖生理学ワークブック「系統看護学講座」準拠 佐藤達夫著：からだの地図帳，講談社						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0305	曜日時間	木曜日
授業科目	生 化 学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義
担当教員	福森 一真						
授業目的	生体を構成する物質の構造の特徴や性質について学び、代謝や遺伝子情報のはたらきを理解する。						
授業目標	1. 人のからだを構成する物質について、その構造や性質の基礎を理解する。 2. 人の生体内における様々な反応（代謝）とその役割とはたらきを学ぶ。 3. 遺伝子の情報がどのようにしてはたらくのかを学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	生体を構成する物質 1. 生化学の基礎知識 2. 糖質と脂質 3. タンパク質（細胞構成）と核酸 4. 血液と尿 5. ホルモンと生理活性物質 生体内の物質代謝 1. 代謝とは 2. 代謝に必要な酵素 <small>酵素とビタミンと補酵素</small> 3. 糖質代謝 <small>分解酵素とエネルギー取り込み</small> 4. 脂質代謝 <small>分解酵素とエネルギー取り込み</small> 5. タンパク質代謝 <small>分解酵素とエネルギー取り込み</small> 6. 核酸代謝とポルフィリン代謝 7. 代謝の異常 遺伝情報とその発現 1. 遺伝情報 2. 先天性代謝異常	講義	30	福森 一真		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	畠山 鎮次著：生化学，医学書院						
備考							

専門基礎分野

疾病の成り立ちと回復の促進

- 病理学
- 疾病治療論 I
- 疾病治療論 II
- 疾病治療論 III
- 疾病治療論 IV
- 疾病治療論 V
- 疾病治療論 VI
- 栄養学
- 微生物学
- 薬理学

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0401	曜日時間	火曜日
授業科目	病 理 学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	魏 峻洸						
授業目的	機能障害の原因である疾患の発生と経過を学び、生活の影響について理解する。						
授業目標	1. 機能障害の原因である疾患の発生と経過について理解する。 2. 病理学の基礎知識を学び、生活者としての人間が影響を受けることの意味を考え、対象の身体的アセスメントに繋げる。 3. 診療の基礎を学び、病理検査を受ける対象の意味を考え、その人の生活への影響を最小限にする看護の役割を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	14	病理学総論 1. 病理学と疾患の関連性 細胞の老化や死と関連して考える 2. 先天異常と遺伝子異常 3. 代謝障害と循環障害 4. 炎症と免疫と膠原病 感染症 5. 感染症と腫瘍 病理学各論 1. 循環器系の疾患 2. 血液・造血器系の疾患 3. 呼吸器系の疾患 4. 消化器系の疾患 5. 腎・泌尿器 生殖器系および乳腺の疾患 6. 内分泌系の疾患 7. 脳・神経・筋肉系の疾患 8. 骨・関節系の疾患 9. 耳・眼・皮膚の疾患 10. 病理と身体機能障害と生活との関連		講義	28	魏 峻洸	
	1	まとめ・評価		講義・試験	2		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	坂本 穆彦他著：病理学，医学書院						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0402	曜日時間	不定期
授業科目	疾病治療論 I						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	徳田 浩喜 ・ 高橋 尚也						
授業目的	消化・吸収と内部環境調整の機能障害の原因の1つである疾患の成り立ちと症状を、生活と関連づけて理解し、生活への影響を学ぶ。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 消化・吸収機能障害が、対象であるその人の生活にあたえる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。 内部環境調節機能障害が、対象であるその人の生活にあたえる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	7	消化・吸収機能障害（消化器） 1. 消化器の構造とはたらき 2. 症状・徴候とその病態生理 3. 検査と治療・処置 内視鏡検査・手術療法・内服療法 4. 疾患の理解 食道・胃の疾患（胃がん・胃食道静脈瘤） 腸および腹膜疾患（クローン病・イレウス・大腸がん） 肝臓・胆嚢疾患（急性肝炎・肝臓がん・胆石） 膵臓疾患（急性膵炎）	講義	14	徳田 浩喜		
	8	内部環境調節機能障害（腎・泌尿器） 1. 腎・泌尿器の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療・処置 透析療法・手術療法・内服療法 4. 疾患の理解 腎不全と尿を作る障害の疾患 （慢性腎不全・糸球体腎炎・尿細管異常） 尿路通過障害の疾患 （尿路結石症・前立腺肥大症・腎損傷） 蓄尿障害の疾患（腫瘍・先天異常）	講義	16	高橋 尚也		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	金田 智他著：成人看護学⑤消化器，医学書院 大東 貴志他著：成人看護学⑧腎・泌尿器，医学書院						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0403	曜日時間	不定期
授業科目	疾病治療論Ⅱ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	川井田 望 ・ 上田 集宣 ・ 久富木 庸子						
授業目的	呼吸と循環と身体防御の機能障害の原因の1つである疾患の成り立ちと症状を、生活と関連づけて理解し、生活への影響を学ぶ。						
授業目標	1. 呼吸機能障害をもつ対象であるその人の生活にあたえる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。 2. 循環機能障害をもつ対象であるその人の生活にあたえる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。 3. 身体防御機能障害をもつ対象であるその人の生活にあたえる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	5	呼吸機能障害（呼吸） 1. 呼吸器の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療・処置 4. 疾患の理解 感染症（肺炎） 間質性肺疾患と呼吸不全 肺腫瘍・胸膜・縦隔・横隔膜疾患	講義	10	川井田 望		
	6	循環機能障害（循環） 1. 循環器の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療・処置 4. 疾患の理解 虚血性心疾患 狭心症・心筋梗塞など 心不全・血圧異常・不整脈 弁膜症・動脈や静脈疾患	講義	12	上田 集宣		
	4	身体防御機能障害（血液・造血器） 1. 血液の生理と造血のしくみ 2. 検査・診断と症候・病態生理 輸血の副作用症状 3. 疾患と治療の理解 赤血球・白血球系の異常(白血病)	講義	8	久富木 庸子		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業評価						
テキスト参考図書	上塚 芳郎他著：成人看護学②呼吸器，医学書院 浅野 浩一郎他著：成人看護学③循環器，医学書院 飯野 京子他著：成人看護学④血液・造血器，医学書院						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0404	曜日時間	不定期
授業科目	疾病治療論Ⅲ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	和田 正一 ・ 浅見 尚規						
授業目的	運動と脳・神経の機能障害の原因の1つである疾患の成り立ちと症状を、生活と関連づけて理解し、生活への影響を学ぶ。						
授業目標	1. 運動機能障害をもつ対象であるその人の生活にあたる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。 2. 脳・神経機能障害をもつ対象であるその人の生活にあたる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	運動機能障害（運動器） 1. 運動器の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 疼痛・神経障害 3. 診断・検査と治療・処置 診断・保存療法・理学療法・作業療法・手術療法 4. 疾患の理解 外傷性（外因性）の運動器疾患 骨折・脱臼・神経損傷・関節リウマチ・痛風 内因性（非外傷性）の運動器疾患 先天性疾患・骨髄炎・骨腫瘍・代謝性骨疾患・筋及び腱 疾患	講義	16	和田 正一		
	7	脳・神経機能障害（脳・神経） 1. 脳・神経系の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 意識障害・高次脳機能障害・運動と感覚機能障害 ヘルニア 3. 検査・診断と治療・処置 神経学的診察・外科的治療法・内科的治療法 4. 疾患の理解 脳血管障害（脳梗塞・脳出血・くも膜下出血） 脳腫瘍（良性腫瘍・悪性腫瘍）・脳の感染症 頭部外傷・脳脊髄液の異常 脊髄疾患 脊髄血管障害・脊髄炎・末梢神経障害・神経・筋疾患	講義	14	浅見 尚規		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト 参考図書	織田 弘美他著：成人看護学⑩運動器，医学書院 井手 隆文他著：成人看護学⑦脳・神経，医学書院						
備考	運動機能障害（運動器）補講をする場合があります。						

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0405	曜日時間	不定期
授業科目	疾病治療論Ⅳ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	園田 定彦 ・ 森岡 弓恵 ・						
授業目的	栄養代謝と内部環境調節と性・生殖の機能障害の原因の1つである疾患の成り立ちと症状を生活と関連づけて理解し、生活への影響を学ぶ。						
授業目標	1. 栄養代謝機能障害をもつ対象であるその人の生活にあたる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。 2. 内部環境調節機能障害をもつ対象であるその人の生活にあたる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。 3. 性・生殖機能障害をもつ対象であるその人の生活にあたる影響を理解し、自ら調整するために援助できる基礎的知識を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	5	栄養代謝、内部環境調節機能障害（内分泌・代謝） 1. 内分泌・代謝器官の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 3. 内分泌・代謝疾患の検査 4. 疾患の理解 内分泌疾患（視床下部 - 下垂体系疾患、甲状腺・副甲状腺疾患、他） 代謝疾患（糖尿病・脂質異常症、他）	講義	10	園田 定彦		
	6	身体防御機能障害（アレルギー・膠原病・感染症） 1. 免疫のしくみとアレルギー 検査と治療、症状と疾患の理解 2. 膠原病 自己免疫疾患とその機序、症状とその病態生理、 検査と治療、疾患の理解 3. 感染症 感染症とは、感染症の検査・診断 感染症の治療、疾患の理解	講義	12			
	4	性・生殖機能障害（女性生殖器） 1. 女性生殖器の構造とはたらき 2. リプロダクティブヘルツライツ 3. 症状とその病態生理 診察・検査と治療・処置 4. 疾患の理解 性分化疾患・臓器別疾患・機能的疾患・感染症	講義	8	森岡 弓恵		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度・リフレクションノート等、総合的に評価する。						
テキスト 参考図書	吉岡 成人他著：成人看護学⑥内分泌・代謝，医学書院 岩田 健太郎他著：成人看護学⑩アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 末岡 浩他著：成人看護学⑨女性生殖器，医学書院 林正 健二他著：健康の回復と看護⑥ 性・生殖機能障害，メディカ出版(参考文献)						

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0406	曜日時間	不定期
授業科目	疾病治療論V						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	井尻 裕司 ・ 杉原 純次 ・ 高崎 直哉 ・ 池井 智紀						
授業目的	感覚機能障害の原因である疾患の成り立ちと症状を、治療方法とともに生活と関連づけて理解する。						
授業目標	1. 感覚機能障害の原因である疾患と生活の関連を理解できる。 2. 感覚機能障害をもつ対象の身体的アセスメントができるための基礎的知識を学ぶ。 3. 感覚機能障害が生活にあたる影響について、日常生活行動の視点でアセスメントできる。						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	4	眼疾患について 1. 眼の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解 機能の障害、部位別障害・外傷・全身疾患との関連		講義	8	井尻 裕司	
	4	耳鼻咽喉科について 1. 耳鼻咽喉・頸部の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療 4. 疾患の理解 耳疾患（外耳・中耳・内耳後迷路性疾患）、鼻疾患（外鼻・鼻腔・副鼻腔）、口腔咽喉頭疾患・気道と食道と頸		講義	8	杉原 純次	
	4	皮膚疾患について 1. 皮膚の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療・処置（光線療法・レーザー療法他） 4. 疾患の理解 表在性皮膚疾患（湿疹・皮膚炎群・蕁麻疹・紅斑症他）、真皮・皮下脂肪織及び皮膚付属器疾患、脈管系の異常・物理化学的皮膚障害・腫瘍・感染症		講義	8	高崎 直哉	
	3	歯・口腔疾患について 1. 歯・口腔の構造とはたらき 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療・処置 4. 疾患の理解 歯の異常と疾患、歯周組織疾患、顎骨炎症・口腔粘膜疾患、口腔領域疾患や腫瘍・先天性異常		講義	6	池井 智紀	
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	大鹿 哲郎他著：成人看護学⑩眼，医学書院 小松 浩子他著：成人看護学⑩耳鼻咽喉，医学書院 渡辺 晋一他著：成人看護学⑩皮膚，医学書院 渋谷 絹子他著：成人看護学⑩歯・口腔，医学書院						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0407	曜日時間	不定期
授業科目	疾病治療論Ⅵ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義
担当教員	中屋敷 一美 ・ 槇 健一郎 ・ 坪内 斉志						
授業目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療決定を判断する基準の1つを理解する。 2. 治療としての放射線療法と外科的治療の基本的な知識と技術を学び、機能障害で影響する生活援助に活用できる基礎的能力を養う。 						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査の種類と役割について理解できる。 2. 検査値の正常・異常が判断でき、ヘルスアセスメントに活用できる基礎知識を学ぶ。 3. 放射線による検査の種類とその診断の基礎的知識を理解し、看護の視点を学ぶ。 4. 放射線被曝及び放射線防護の基本を知り、生活への影響を予防し、被曝を軽減する方法を学ぶ。 5. 周手術期看護の基礎として、外科的治療である手術療法と生活への影響を学ぶ。 6. 検査や治療が原因で、機能障害を引き起こす関連を理解できる。 						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	2	臨床検査の目的と正常値 一般検査（穿刺、髄液検査など）、血液検査（血球検査・生化学・免疫検査など）、生理機能検査		講義	4	中屋敷 一美	
	6	臨床放射線医学について 画像診断 1. 画像診断と看護 2. X線診断 3. CT 4. MRI 5. 超音波検査 6. 核医学検査 7. IVR・血管造影 放射線治療 1. 放射線治療総論 2. 放射線治療と看護 3. 放射線治療各論 放射線防護（放射線による障害と防護）		講義	12	槇 健一郎	
	7	手術療法について 1. 外科患者の病態の基礎 手術侵襲（炎症・感染症・腫瘍・外傷とショック） 2. 外科的治療を支える分野 麻酔法（麻酔の種類・術前中後管理全身麻酔） 機能障害との関連 呼吸管理（酸素療法・機械的人工換気など） 体液と栄養管理（体液管理と輸液、栄養管理） 輸血療法（過誤防止策・危険性・課題） 緩和医療（緩和ケア・全人的苦痛の緩和など） 3. 外科的治療の実際 外科的基本手技（基本小手技・創傷管理） 低侵襲治療（内視鏡ガイド下の治療） 臓器移植（基本知識と看護師の役割） 4. 救急看護の基礎 緊急処置の範囲と対象、救急看護の実際		講義	14	坪内 斉志	
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	奈良 信雄他著：臨床検査，医学書院 福田 国彦他著：臨床放射線医学，医学書院 矢永 勝彦他著：臨床外科看護総論，医学書院						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0408	曜日時間	
授業科目	栄 養 学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	温谷 恭幸						
授業目的	栄養代謝機能、消化・吸収機能として、外界から取り入れる物質である栄養を摂取することの目的と意義を理解し、生活を調整するための食事療法の基本について学ぶ。						
授業目標	1. 健康な生命活動を営むための「食べる」生活行動として、栄養の基礎知識を学ぶ。 2. 日常生活行動のエネルギー源とした食事について、栄養評価の方法を学ぶ。 3. 栄養代謝機能障害として、社会生活やライフスタイルの変化に伴う新たな栄養問題を考える。 4. 食事療法の意味を学び、看護の役割を理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. 人間栄養学と看護 栄養学の歴史、保健と栄養、食事療法と変遷 2. 栄養状態の評価・判定 栄養評価の定義と目的、栄養状態の評価と判定法 3. 栄養素の種類とはたらき 糖質、脂質、タンパク質、ビタミンADEKB・ナイアシン・パントテン酸、ミネラル、食物繊維、水 4. エネルギー代謝 食品エネルギー、体内のエネルギー、エネルギー代謝の測定、エネルギー消費 5. 栄養素の消化・吸収 栄養の消化（機械的消化と化学的消化、消化器系のはたらき）、栄養素の体内運搬 6. 栄養素の体内代謝 肝臓のはたらき、血糖、血漿脂質、血漿のアミノ酸とタンパク質、核酸代謝、ポルフィリン代謝、代謝の調節と排泄 7. 栄養ケア・マネジメント 栄養スクリーニング、栄養のアセスメントと援助計画 8. ライフステージと栄養 乳児期、幼児期、学童期、思春期と青年期、成人期、妊娠期、授乳期、更年期、高齢期の栄養と特徴 9. 臨床栄養（病院食、疾患別治療食、栄養補給法） 10. 健康づくりと食品・食事・食生活食文化	講義	30	温谷 恭幸		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト 参考図書	中村 丁次他著：栄養学，医学書院 中村 丁次他著：栄養食事療法，医学書院						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0409	曜日時間	月曜日
授業科目	微生物学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義
担当教員	後藤 義孝						
授業目的	微生物学に関する基礎的知識を理解し、感染症の仕組みと予防、治療について学ぶ。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の生物界における位置と、微生物学の歩みについて学ぶ。 2. 感染のおこるしくみを理解し、予防について学ぶ。 3. 感染症と生活との関係について理解できる。 4. 機能障害と微生物との関係について理解できる。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	<p>微生物学の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物と微生物学 生物と生活、微生物と対象であるその人、微生物学の歩み 2. 細菌の性質 形態と特徴、培養、遺伝、分類、常在細菌叢 3. 真菌の性質 形態と特徴、分類、培養 4. 原虫の性質 特徴と基本構造、種類、感染 5. ウイルスの性質 特徴と機能、分類、バクテリオファージ <p>感染とその防御</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染と感染症 感染成立から発症・治療、細菌と真菌とウイルス感染機構 2. 感染に対する生体防御機構 自然免疫・獲得免疫、粘膜免疫、感染の兆候と症状 3. 感染源・感染経路からみた感染症 経口感染、経気道感染、接触感染、経皮感染 4. 感染症の予防 バイオハザードとバイオセーフティ、滅菌と消毒 ワクチンと予防接種 5. 感染症の検査と診断 病原体を検出する方法、生体の反応から診断する方法 6. 感染症の治療 化学療法の基礎、各種の化学療法薬 7. 感染症の現状と対策 感染症の変遷、現状と問題点、感染症対策 <p>おもな病原微生物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病原細菌と細菌感染症 グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性好気性杆菌、他 2. 病原真菌と真菌感染症 深在性真菌症、深部皮膚真菌症、表在性真菌症 3. 病原原虫と原虫感染症 根足虫類、鞭毛虫類、孢子虫類 4. おもなウイルスとウイルス感染症 DNAウイルス、RNAウイルス <p>まとめ・評価</p>	講義	30	後藤 義孝		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	吉田 眞一他著：微生物学，医学書院						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0410	曜日時間	水曜日
授業科目	薬理学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	大仁田 康子						
授業目的	薬物の基本知識と生体内での作用機序を理解し、臨床での薬物療法の意味を学ぶ。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物を用いて治療する意味や基本的知識を学ぶ。 2. 疾病治療薬として用いられる薬物の作用と副作用及び薬物中毒について学ぶ。 3. 安全な薬物の取り扱い方法を学ぶ。 4. 薬物が生活にあたる影響について学ぶ。 						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	15	<p>薬理学とは</p> <p>薬物治療の目指すもの、薬の身体への影響 薬効果に影響する因子</p> <p>抗感染症薬</p> <p>抗菌作用と耐性、抗菌薬について、 感染症治療薬における問題点</p> <p>抗がん薬</p> <p>抗がん作用の仕組み、抗がん薬の種類</p> <p>免疫治療薬</p> <p>免疫抑制薬</p> <p>抗アレルギー薬・抗炎症薬</p> <p>抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬</p> <p>末梢での神経活動に作用する薬物</p> <p>自律神経系（交換神経作用薬と副交感神経作用薬と筋弛緩薬）</p> <p>中枢神経系に作用する薬物</p> <p>全身麻酔薬、催眠薬と抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬、 パーキンソン治療薬、抗てんかん薬</p> <p>心臓・血管系に作用する薬物</p> <p>抗高血圧薬、狭心症治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、 脂質異常症、血液に作用する薬物</p> <p>呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物</p> <p>気管支喘息治療薬・消化器系に作用する薬物、 生殖器に作用する薬物</p> <p>物質代謝に作用する薬物</p> <p>ホルモンおよびホルモン拮抗薬、治療としてのビタミン</p> <p>皮膚科用薬・眼科用薬 炎症性皮膚疾患</p> <p>救急の際に使用される薬物</p> <p>救急蘇生使用時の薬物、症状別使用薬物、急性中毒薬物治療</p> <p>漢方薬</p> <p>消毒薬(低水準消毒薬、中水準消毒薬、高水準消毒薬) 輸液剤・輸血剤</p>		講義	30	大仁田 康子	
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	大鹿 英世他著：薬理学，医学書院						
備考							

専門基礎分野

健康支援と社会保障制度

- 総合医療論
- 公衆衛生
- 社会福祉
- 関係法規
- リハビリテーション療法
- 健康科学論

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0501	曜日時間	金曜日
授業科目	総合医療論						
単位数	1 単位	時間	1 5 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義
担当教員	志戸本 宗徳						
授業目的	医療や看護の原点を探り、現代医療の実像と新しい展開について学び、その背景にある医療問題について理解する。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療に携わるための基礎的な事柄を学ぶ。 2. 医療の歴史を知り、各時代における医療問題を学ぶ。 3. 過去と比較して、今後の望ましい医療と社会との関係を洞察できる。 4. 高度の医療技術が人々の生活にどのような影響をもたらすのかを考える。 						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	8	はじめに一援助と共感 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療と看護の原点 命について、健康について、健康障害、癒し、マネジメント 2. 医療の歩みと医療観の変遷 現代医学の起源、医療の変遷、医療観の変遷 3. 私たちの生活と医療 生活と救急医療、病院、薬、福祉行政、健康増進 ノーマライゼーション、こころの健康と精神医療 4. 科学技術の進歩と現代医療の最前線 がん診療最前線、移植医療、人工臓器、体外受精、再生医療 5. 現代医療の新しい課題 薬の副作用、生命倫理学、産業社会 インフォームドコンセント 6. 医療を見つめなおす新しい視点 臨床疫学、患者の安全、医療の管理と評価、 先進医療開発 7. 保健・医療・福祉の潮流 新時代の保険・医療の担い手、プライマリケア、 医療におけるケアの視点、 保健・医療・福祉システムと地域住民の役割 		講義	16	志戸本 宗徳	
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	康永秀生著：医療概論，医学書院						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0502	曜日時間	金曜日
授業科目	公衆衛生						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義
担当教員	峯田 孝子						
授業目的	疾病の発生を予防し、人々の健康保持・増進のための公衆衛生活動を理解し、わが国のヘルスプロモーション促進活動を学ぶ。						
授業目標	1. 自己の健康を守るためには、安心を保障するしくみがあることを理解できる。 2. 疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくための公衆衛生活動を学ぶ。 3. 健康を規定する要因を幅広くとらえ、社会における位置づけを学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	公衆衛生の基礎 1. 公衆衛生の理念と看護の倫理 公衆衛生とは、プライマリーヘルスケア 情報公開と生命倫理 2. 健康と環境 3. 公衆衛生の技術 疫学と健康指標、新しい健康概念と健康づくり ヘルスプロモーション 公衆衛生と現代社会 1. 日本における社会保障制度および医療制度の改革 社会保障制度・医療制度の動向と改革 2. グローバル化する世界と公衆衛生 グローバル化、国際協力 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 公衆衛生の実践 1. 地域保健 健康づくりと地域、地域保健 2. 対象別公衆衛生の実践 母子保健、成人保健と老年保健、精神保健、難病保健、感染症対策 3. 場面別公衆衛生の実践 学校保健、産業保健、災害保健、健康危機管理	講義	16	峯田 孝子		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	平野かよ子著：ナーシンググラフィカ健康支援と社会保障② 公衆衛生，メディカ出版（2021年改訂）						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0503	曜日時間	金曜日
授業科目	社会福祉						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義
担当教員	川俣 幸治						
授業目的	地域で生活を調整するために活用する社会資源を理解し、関係職種と連携して生活を整える基本知識を学ぶ。						
授業目標	1. 社会福祉と社会保障の意味を学び、看護の役割を学ぶ。 2. 社会保障の変遷を学びながら、現在の社会福祉の課題を学ぶ。 3. 機能障害をもちながら生活を調整するその人が社会保障を活用している生活を知る。 4. 各対象特性別に応じた社会福祉との関連を知り、今後の課題を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. 社会保障制度と社会福祉 社会保障の概念と目的、社会福祉の定義 機能障害と社会福祉 2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 現代の社会の変化、社会保障の変遷と動向、 社会福祉の変遷 3. 医療保障 医療保障の歴史、医療保障の種類と対象者、 給付の種類、費用負担と医療保険制度 4. 介護保障 介護保険制度の意義と経緯、改正、目的と保険者、 保険事故、保険給付とマネジメント 5. 所得保障 年金制度の歴史と制度と分類と体系、 労働保険制度と雇用保険と労災保険制度 6. 公的扶助 生活保護法と施策（基本原則、実施機関、保護の実施 の内容と保護の状況）、生活保護の現状と課題 7. 社会福祉の分野とサービス 児童福祉と施策（児童福祉法の成立、動向と課題、対 象と関係法、実施体制、施設） 障害者の福祉施策（障害者基本法、障害者自立支援 法、知的障害者福祉法、精神障害者の福祉施策、障害 者自立支援法のサービス、障害者総合支援法） 8. 社会福祉実践と医療・看護 9. 社会福祉の歴史	講義	30	川俣 幸治		
終了後 課題							
評価計画 方法	筆記試験・授業態度・レポート内容						
テキスト 参考図書	増田雅暢他著：ナーシンググラフィカ健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障，メディカ出版（2021年改訂）						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0502	曜日時間	月曜日
授業科目	関係法規						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義
担当教員	倉爪 真一郎						
授業目的	看護の仕事が、実は様々な法律によって規定されていることを学ぶ。						
授業目標	1. 人の生命を守ることはもちろん、その人の権利を守るとはどういうことか、を理解する。 2. 看護・医療と福祉、衛生、薬事との関係を、法と制度を通じて考える。 3. 看護される人の生活・ライフサイクルと法・制度の関係について考える。 4. 看護師としての人生設計について、法・制度の観点から考える。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	1	保健師助産師看護師法	講義	2	倉爪 真一郎		
	2	医師法、医療関連職に関する法律	講義	2			
	3	医療法	講義	2			
	4	救急医療に関する法律	講義	2			
	5	災害看護に関する法律およびDMAT	講義	2			
	6	感染症と食中毒に関する法律	講義	2			
	7	母性看護に関する法律	講義	2			
	8	小児看護に関する法律および臓器移植法	講義	2			
	9	児童福祉に関する法律と医療費補助に関する法律	講義	2			
	10	障害・難病・介護に関する法律	講義	2			
	11	高齢者の医療・保険・福祉に関する法律	講義	2			
	12	精神障害に関する法律	講義	2			
	13	薬、薬剤師、大麻・あへん・向精神薬等に関する法律	講義	2			
	14	障害者福祉、虐待等社会問題に関する法律	講義	2			
	15	保健、環境、労働、子育て支援に関する法律	講義	2			
終了後課題	授業で取り上げた内容からテーマを決めて、レポートを書く（2000字以上）。						
評価計画方法	レポート（80%）、平常点・授業態度（20%）。						
テキスト参考図書	平林 勝政 他編：ナースング・グラフィカ健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度, メディカ出版（2021年改訂）						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0505	曜日時間	火曜日
授業科目	リハビリテーション療法						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義
担当教員	江藤 優子						
授業目的	機能障害から影響を受けた生活を、自分自身で調整する能力を育むリハビリテーションの方法を学び、援助する方法を理解する。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象であるその人がもつ機能障害を理解し、その特徴に応じたリハビリテーションの方法を学ぶ。 2. リハビリテーションに関係する職種を学び、協働でその人の生活を支える連携を学ぶ。 3. 生きる意味や生命の質を考え、生活が調整困難な部分を知り、それに対する援助方法を考える。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション概論 定義と理念、障害者の実態、障害の分類と構造、分野、医療システム 2. リハビリテーション看護概論 看護の確立、看護機能、障害に対する態度、看護の方法論 3. 運動器系の障害とリハビリテーション看護 総論 (運動系の障害の動向) 骨折 (治療とリハビリテーションと看護、末梢神経障害、関節拘縮、筋委縮) 関節リウマチ (リハビリテーションと看護) 4. 中枢神経系の障害とリハビリテーション看護 脳血管障害 (意識障害・運動障害・構音障害失語症・摂食嚥下障害・失認失行・知能記憶障害・排便排尿障害) パーキンソン病 (運動機能障害、言語障害、呼吸障害、自律神経障害、精神機能障害) 脊髄損傷 (対麻痺、呼吸機能障害、排尿排便障害、性機能障害、自律神経機能障害) 5. 呼吸・循環器系の障害のリハビリテーション看護 慢性閉塞性肺疾患、虚血性心疾患の生活リハビリテーション 6. 感覚器系の障害とリハビリテーション看護 視覚障害、聴覚障害の機能障害と生活 	講義	16	江藤 優子		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	奥宮暁子他著：ナーシンググラフィカ成人看護学⑥ リハビリテーション看護，メディカ出版						
備考							

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0506	曜日時間	金曜日
授業科目	健康科学論						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義
担当教員	峯田 孝子						
授業目的	原因である疾患や生活環境、治療と機能障害の関連を学び、健康と生活の繋がりを地域の側面から理解して看護に活かすことができる。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康と疾患や治療、生活習慣の関連について理解できる。 生活と健康上の問題の関連を理解できる。 対象であるその人の地域生活が、どのように保持増進されているか学ぶ。 ライフサイクルと健康と健康管理について理解できる。 地域における健康に影響をあたえる要因の対応方法を理解できる。 疾患と健康と生活と看護の関連を理解できる。 						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	8	<ol style="list-style-type: none"> 健康の定義 対象それぞれの健康の概念 健康と疾患との関連 ライフサイクルと健康 各発達段階における健康問題 地域生活の健康上の課題と健康管理 物理・化学的要因（環境と健康） 身体・生理的要因（睡眠・食生活・排泄と健康） 心理・精神的要因（こころの健康） 健康障害と生活との関連 健康に影響をあたえる要因 生活の影響 飲酒・喫煙・体重異常・ストレスと健康 疾患と健康と生活のそれぞれの関連 看護との関連 		講義	16	峯田 孝子	
終了後課題	「自分の住んでいる地域の生活と健康を考える。」レポート提出						
評価計画方法	筆記試験・授業態度・レポート						
テキスト参考図書	平野かよ子著：ナーシンググラフィカ健康支援と社会保障② 公衆衛生，メディカ出版（2021年改訂）						
備考							

専門分野 I

- 基礎看護学
- 臨地実習

科目区分	専門分野 I			科目番号	0601	曜日時間	不定期
授業科目	看護学概論						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1 年次前期	授業形態	演習
担当教員	深見 信子						
授業目的	1. 看護の基本となる概念や看護の理論を学び、看護の本質を知る。 2. 看護の視点に立ち、対象理解と看護の機能を学び、保健医療・福祉の広い視野で看護の果たす役割を理解する。						
中 核	看護学を構成する主要概念						
授業目標	1. 看護の概念を把握し、対象である人間を全人的に学ぶ。 2. 看護の倫理的根拠について学び、自己の看護観を育成する。 3. 看護の場である対象の生活を考え、看護理論と関連して学ぶ。 4. ヴァージニア・ヘンダーソンの看護理論を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	15	1. 科目ガイダンス 看護の歴史と発展 ・フローレンス・ナイチンゲールの業績 ・職業としての看護 2. 看護活動の本質 ・看護を構成する要素 (人間・生活・環境・健康) 3. 看護の対象 4. 看護実践の方法 5. 看護と倫理 6. 現代の保健医療福祉活動における看護の特徴と課題 7. 看護学の発展 ・主たる看護理論家の概念構成 8. ヴァージニア・ヘンダーソン理論		講義 ・ グループ ワーク	30	深見 信子	
課題など	1. 毎回リフレクションを行い、そのなかで発見した課題を探究する。 2. 元ポートフォリオに、「看護」に関する興味関心のあることを収集していくこと。 3. 提出は不定期に指示する。期限を守らない・内容の不足は減点対象となる。 4. 元ポートフォリオから重要だと考えるものを凝縮ポートフォリオに入れること。						
評価計画方法	作成物・凝縮ポートフォリオ(30%)筆記試験(50%)課題への取り組み・提出(20%)						
テキスト 参考図書	茂野香おる著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論第17版，医学書院 フローレンス ナイチンゲール著：看護覚え書き，現代社 東京医科大学看護専門学校：よくわかる看護者の倫理綱領，照林社 ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会						
備 考	別紙「看護学概論への招待状」にて準備するもの・必要事項を提示する						

科目区分	専門分野 I			科目番号	0602	曜日時間	不定期
授業科目	看護研究理論						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	東 直子						
授業目的	1. 看護研究の基礎を学び、看護実践における研究の意義・方法を理解する。 2. 看護の質を向上させるために常に探究心を持ち、自己研鑽できる態度を養う。						
中 核	看護現象の探究						
授業目標	1. 看護実践における研究の意義および目的について理解できる。 2. 看護研究の基礎的理論と方法が分かる。 3. 看護研究の基本的な進め方が理解できる。 4. 研究や臨地実習で必要な文献を収集できる。 5. 自己の看護場面から「問い（研究疑問）」を明らかにし、研究計画書を作成できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当		
	8	1. 看護研究の歴史（意義と発展） 1) ナイチンゲールの功績と看護研究 2) 看護研究の目的と意義 2. 研究の種類、研究方法 3. 看護研究における倫理 4. 文献検索とクリティーク 5. 研究のステップ 6. 文献検索の意義と方法 1) 文献検索の意義 *基礎看護学実習Ⅱの経験をもとに検索を進める 7. 研究計画書作成 1) テーマの絞り込み 2) 研究計画書作成のポイント 8. 看護研究における課題	 講義 演習	16	東直子	講義終了後、リフレクションノート提出	
終了後課題	文献検索、文献レビューに関する内容をリフレクションノートに記載し提出する。						
評価計画方法	提出物・リフレクションノート20%・筆記試験60%・研究計画書20%						
テキスト参考図書	坂下玲子：系統看護学講座 看護研究, 医学書院, 2019. 高橋百合子監修：看護学生のためのケース・スタディ, メヂカルフレンド社, 第4版, 2015. 足立はるゑ：看護研究サポートブック, メディカ出版, 第4版, 2017.						
備考	準備：ポートフォリオ用ファイル、リフレクションノート						

科目区分	専門分野 I			科目番号	0603	曜日時間	不定期
授業科目	看護研究演習						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	3年次前期	授業形態	演習
担当教員	佐藤 麻希						
授業目的	1. 過去の文献を研究することで得られた知識や理論を、演繹法で検証できる。 2. 系統的・科学的な思考を身につけるための研究の基礎を、看護研究を通して理解できる。						
中 核	看護現象の探求による知の創造						
授業目標	1. 看護研究をするための目的が分かる。 2. 自分の研究疑問が分かる。 3. 看護研究のための一連の流れが分かる。 4. 文献検索の方法が分かる。 5. 研究を発表する方法が分かる。 6. 論文をまとめることができる。(表現方法の理解) 7. 自分の意見を発表できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	I. オリエンテーション、研究方法の実際 II. プレゼンテーションの方法について III. 事例の選択 ①研究方法の決定、研究計画書作成 ②文献検索、クリティーク ③データ収集 ④データの分析 ⑤分析の解釈、結果 ⑥結果・結論 IV. 論文作成 ①引用参考文献の活用 ②論文の修正・追加 V. まとめ：論文発表	講義 演習	30	各担当教員(グループ別)		
終了後課題	看護研究論文						
評価計画方法	看護研究論文、発表方法						
テキスト参考図書	坂下玲子：系統看護学講座 看護研究, 医学書院, 2019. 高橋百合子監修：看護学生のためのケース・スタディ, メヂカルフレンド社, 第4版, 2015. 足立はるゑ：看護研究サポートブック, メディカ出版, 第4版, 2017.						
備 考	準備：ポートフォリオ用ファイル、リフレクションノート						

科目区分	専門分野 I			科目番号	0604	曜日時間	不定期
授業科目	基礎看護技術 I						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	細山田 美雪 ・ 横手 理香						
授業目的	1. 看護技術の概念、看護における技術の意義を学び、看護技術の学び方がわかる。 2. どのような看護の場面にも共通する基本技術について基礎的知識、技術、態度を学ぶ。 3. 安全な看護を提供するための基礎的な知識と技術を学ぶ。						
中 核	看護の基盤となる技術						
授業目標	1. 看護技術の概念及び意義を理解する。 2. 医療、看護における安全・安楽・自立・個別性の意義を理解する。 3. 看護場面での基盤となる技術の基礎的知識を学び、基本となる技術を修得する。 4. 「話す・聞く」のコミュニケーションの意義と方法がわかる。 5. 「運動」と「休息（睡眠）」の意義と援助方法がわかる。 6. 関わりの場면을リフレクションし、今後の自己の課題を明確にする。						
	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	7	1. 基礎看護技術の概念、看護技術の基本原則 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 看護場面におけるプロセスレコードとその活用 4. コミュニケーション障害のある人への関わり 5. 対人関係に着目した理論家とその特徴 6. リラクゼーション“てあて”の実施・体験 7. 看護コミュニケーション まとめ	講義 グループワーク ロールプレイ	14	細山田 美雪	講義終了後、リフレクションノート提出	
	8	1. 「活動・運動」活動・運動の意義 運動がもたらす生理学的変化 同一体位の有害性 基本的な体位、良肢位 2. 学内実習 車いす移動・移乗 3. 「休息・睡眠」 休息・睡眠の意義、睡眠のメカニズム 4. 巻法 5. 学内実習 ポジショニング、巻法 6. 記録 記録の目的、記録の方法、記録の留意点 記録の種類、記録情報の取り扱い方法	講義 演習 学内実習	16	横手 理香		
終了後課題	リフレクションシート						
評価計画方法	筆記試験・学内実習態度・レポート・リフレクションノート						
テキスト 参考図書	茂野香おる著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 第17版, 医学書院 任 和子著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 I 第17版, 医学書院						
備考							

科目区分	専門分野 I			科目番号	0604	曜日時間	不定期
授業科目	基礎看護技術 II						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1 年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	宮下 梨沙						
授業目的	対象の健康状態を判断するための、生命活動を支えるヘルスアセスメント技術を学ぶ。						
中 核	生命活動をアセスメントする技術と生命の危機的状態を回避する技術						
授業目標	1. ヘルスアセスメントの意義を理解する。 2. フィジカルアセスメントの基礎的技術を修得する。 3. バイタルサインの表す意味が理解でき、正確に測定できる。 4. 意図的なコミュニケーションを活用できる。 5. 記録、報告の重要性と方法が理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当		
	15	1. ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 2. 身体計測の技術 3. バイタルサイン測定とは 1) バイタルサイン値を変容させる因子 2) 事例に応じて安全・安楽・正確に測定する 体温・脈拍・血圧・呼吸・意識レベルの観察 1. 症状・徴候を観察する 2. フィジカルアセスメント 1) 視診法 2) 触診法・打診法 3) 聴診法 3. BLS・救急救命処置	講義 学内実習 講義 学内実習	30	宮下 梨沙		
終了後課題	担当教員の指示に従う						
評価計画方法	担当教員の指示に従う						
テキスト 参考図書	茂野香おる著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 第17版，医学書院 任 和子著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 I 第17版，医学書院						
備 考							

科目区分	専門分野 I			科目番号	0606	曜日時間	不定期
授業科目	基礎看護技術Ⅲ ①						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	岡原 幸代						
授業目的	対象の日常生活行動の視点から、日常生活の援助方法を学ぶ。						
中 核	生活行動援助技術						
授業目標	1. 生活と環境の意味を理解する。 2. その人の生活について考え、日常生活について理解する。 3. 生活を整える方法を理解する。 4. 環境と身体を「きれいにする」ことの意味を考え、その人に対する援助方法を修得する。 5. 「食べる」ことの意味を考え、その人に対する援助方法を修得する。 6. 「きれいにする」と「食べる」ことに関連について理解する。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	1. 環境調整 1) 環境とは 2) 病室と病床の環境調整 3) 私たちの過ごす環境 2. 学内実習① 1) 環境調整 2) ベッドメイキング 3. 食事・栄養の援助 1) 食事・栄養の定義 2) 健康な食生活と食事基準、治療食・療養食 3) 食事・栄養状態のアセスメント 4) 経口摂取できる患者の食事介助 5) 経管栄養 6) 経静脈栄養法 7) 口腔ケア 4. 学内実習② 1) 嚥下障害のある患者の援助 2) 口腔ケア	講義 グループワーク 学内実習	16	岡原 幸代	パフォーマンス課題	
終了後課題	リフレクションノート、レポート（内容については講義にて提示）						
評価計画方法	レポート（5%）、筆記試験（90%）、提出物及び授業態度（5%）						
テキスト参考図書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 3（医学書院）						
備 考	準備：リフレクション用のノート、ポートフォリオ用のクリアファイル						

科目区分	専門分野 I			科目番号	0606	曜日時間	不定期
授業科目	基礎看護技術Ⅲ ②						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	上原 由加里 ・ 横手 理香						
授業目的	対象の日常生活行動の視点から、日常生活の援助方法を学ぶ。						
中 核	生活行動を援助する技術						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. その人の生活について考え、排泄・清潔に関する日常生活行動について理解する。 2. 日常生活行動の視点で対象を捉え、安全、安楽に生活を整える方法を理解する。 3. 排泄の意味を考え、関連する援助方法を修得する。 4. 清潔の意味を考え、関連する援助方法を修得する。 5. 更衣する意味を考え、対象にあった援助方法を修得する。 6. 日常生活行動の視点のそれぞれに関連する因子を理解しその人にあった援助方法を考える。 						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	7	安全・安楽な浣腸技術の知識 1) DVD鑑賞 2) パフォーマンス課題提示 学内実習 グリセリン浣腸と便器挿入 自然な排泄（正常と異常の基本知識） 自然な排泄の支援 1) DVD鑑賞 2) パフォーマンス課題提示 学内実習 オムツ交換と陰部洗浄		講義 グループワーク 学内実習	14	上原 由加里	パフォーマンス課題
	8	安全安楽な清拭技術の知識 1) DVD鑑賞 2) パフォーマンス課題提示 学内実習 全身清拭と寝衣交換（浴衣） 洗髪技術の知識 1) DVD鑑賞 2) パフォーマンス課題提示 学内実習 洗髪（ケリーパッド）と整容 清潔と衣生活（意義とニード、影響する因子） まとめ		講義 グループワーク 学内実習	16	横手 理香	パフォーマンス課題
終了後課題	リフレクションノート						
評価計画方法	筆記試験・学内実習の態度						
テキスト参考図書	任 和子著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 I 第17版，医学書院						
備 考	A4サイズのノート（リフレクションノート）とクリアファイル（ポートフォリオ）を用意しておく。						

科目区分	専門分野 I			科目番号	0607	曜日時間	不定期
授業科目	基礎看護技術Ⅳ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	上原 由加里 ・ 森岡 弓恵						
授業目的	診察、検査、治療や処置に伴い必要となる看護援助と、それらを受ける対象の心理を学ぶ。						
中 核	協働で行う苦痛を最小にした、検査と治療による回復の促進						
授業目標	1. 健康保持、健康の回復における診療の意義を理解し、診察、検査、治療や処置における基本的な援助技術を学ぶ。 2. 対象の安全・安楽を優先させる技術と態度を身につける。 3. 診察、検査、治療や処置をうける対象を理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	6	1. 感染予防 1) 感染の成立と予防 2) 標準予防策と感染経路別予防策 3) 手洗い、手指消毒 4) 消毒、滅菌法 5) 感染拡大の防止の対応 2. 学内実習③ スタンダードプリコーション、ガウンテクニック 3. 学内実習④ 無菌操作、創傷処置		講義 演習 学内 実習	12	上原 由加里	パフォーマンス課題
	9	1. 診断・治療過程と看護 1) 検査に伴う看護技術 検査の目的と看護の役割 2) 検査の基本的看護技術・採血 3) 演習（真空管採血） 2. 与薬の技術 1) 安全で効果的な与薬を行うために必要な知識と技術 与薬における看護の役割 2) 与薬に関する基本的看護技術・注射 3) 演習（筋肉内注射） 3. 侵襲性の高い診療に伴う看護技術 1) 検査・診察・処置の介助		講義 演習	18	森岡 弓恵	
終了後課題	リフレクションノート						
評価計画方法	レポート・筆記試験・実習態度						
テキスト参考図書	任 和子著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 第17版, 医学書院						
備 考							

科目区分	専門分野 I			科目番号	0608	曜日時間	不定期
授業科目	基礎看護技術 V						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	佐野 洋子						
授業目的	健康上の問題をもつ対象への必要な援助を判断し、状況に応じた援助を実践する方法を学ぶ。						
中 核	状況に応じた看護技術						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象が生活する療養の場を理解する。 2. 生活の調整が必要な部分をとらえ、科学的根拠に基づいた援助を考える。 3. 援助するまでの思考過程の中で、「対象に応じた」の意味を探求する。 4. 対象に応じた意図的コミュニケーション技術を活用できる。 5. 臨床の場面を想起した看護技術を活用できる。 6. 状況に応じて、既習した知識や看護技術を判断し、援助できる。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当		
	15	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床看護における対象者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床という場の理解 2) 患者・家族の理解 2. 健康障害の経過からみた看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康障害のレベルとしての「経過」 3. 対象に応じた意図的コミュニケーション 4. 対象に応じた看護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 足浴 2) 摘便 4. OSCE <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の状況に応じた援助技術の実施 5. 対象にとっての最善の援助技術とは 	 講義 GW 学内 実習	30	佐野 洋子	講義終了後、リフレクションノート提出	
終了後課題	リフレクションシート						
評価計画方法	筆記試験50%，リフレクションノート及びレポート10%，OSCE（技術試験）40%						
テキスト参考図書	茂野香おる著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I 第17版，医学書院 任 和子著：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔3〕基礎看護技術 I 第17版，医学書院						
備 考	準備：ポートフォリオ用ファイル、リフレクションノート						

科目区分	専門分野 I			科目番号	0609	曜日時間	不定期
授業科目	基礎看護技術VI						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	演習
担当教員	深見 信子						
授業目的	1. 患者を全人的にとらえる意味を理解し、その人に最適な援助をを実践できる基礎的能力を学ぶ。 2. 援助のプロセスを通して、健康上の問題に対する看護判断の根拠を考える。						
中 核	看護実践における思考過程						
授業目標	1. PDCAサイクルの一連の流れを理解する。 2. 看護実践を支える看護の思考過程を理解する。						
授業の内容と方法		授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. V. ヘンダーソン理論 2. PDCAサイクルと看護過程 3. 看護情報とは 4. 対象を全人的に捉えるとは 5. 援助関係を成立させるために必要なこと 6. ヘンダーソンの看護理論を用いた看護過程 情報と観察（基本的欲求） 情報の意味を考える 患者の全体像（各情報との関連） 問題点の抽出 援助計画の立案 まとめ 「本質的な問いに対する永続的理解の探求」 看護判断の根拠	講義 演習	30	深見 信子	事例の 提示	
終了後課題	思考過程の資料となるポートフォリオやリフレクションノートを授業最終日から7日後に提出						
評価計画方法	筆記試験（50%）、思考過程の学びと計画（40%）、指導案・演習態度（10%）						
テキスト参考図書	ヴァージニアヘンダーソン著 湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの ヘンダーソンの基本t系看護に関する看護問題リスト						
準備物	基礎看護技術用のリフレクションノート・ポートフォリオ2冊を用意すること						

科目区分	専門分野 I			科目番号	0610	曜日時間	7・11月
授業科目	基礎看護学実習 I						
単位数	1 単位	時間	45 時間	開講時期	1年次	授業形態	臨地実習
担当教員	宮下 梨沙 ・ 横手 理香						
授業目的	様々な健康状態にある対象とその人の療養生活について理解し、その人らしい日常生活を送るための看護活動の実際を学ぶ。						
中核	日常生活を支援する看護						
授業目標	1. 療養施設における生活環境を知ることができる。 2. 患者の療養生活や看護への関心を深めることができる。 3. 療養施設における看護師の役割を考慮することができる。 4. 患者の日常生活援助の実際を学ぶ。						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	6日間	オリエンテーション ・対象の療養環境である病院や病棟の環境 ・臨地実習における留意点 個人指導（記録・援助指導）	講義 演習		宮下・横手	事前学習も含めて問題意識をもつ	
		1. 療養施設の概要の説明を受け施設内を見学する 1) 療養環境としての病棟と病室の概要を知る 2. 患者と良好なコミュニケーションを図る 3. 受け持ち患者の療養環境や療養生活を知る 4. 看護師と共に行動し、看護活動の実際を学ぶ	臨地実習	15	各担当教員		
1. 患者の健康状態や日常生活の観察をする 2. 受け持ち患者への援助 1) バイタルサイン測定 2) 快適な療養環境を整える 3) 日常生活援助を安全・安楽に実施する 3. 自己の援助を振り返り、今後の課題を明らかにする	30						
事前課題	日常生活に影響する要因、日常生活援助技術						
評価計画方法	出席状況、健康管理状況、実習態度などを含め、実習評価表の項目に沿って総合的に評価						
テキスト参考図書	既習のテキスト、必要な文献						
備考							

科目区分	専門分野 I			科目番号	0611	曜日時間	7月
授業科目	基礎看護学実習 II						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	臨地実習
担当教員	宮下 梨沙 ・ 横手 理香						
授業目的	様々な健康状態にある患者の療養生活について理解し、その人に応じた日常生活を送るための看護活動の実践を学ぶ。						
中核	その人の回復を促す看護						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に関心を寄せ全人的にとらえることができる。 2. 看護上の課題を明確にし、援助計画を立案できる。 3. 援助計画に基づき、指導のもと日常生活援助を実践できる。 4. 実施した援助の追加・修正し、患者に応じた日寿生活援助ができる。 						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
		<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 影響を受けた生活や、日常生活の援助 ・ 臨地実習における留意点 <p>個人指導（記録・援助指導）</p>	講義 演習		宮下 ・ 横手	事前学習も含めて問題意識をもつ	
	12日間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の思いや健康状態、日常生活について関心を注ぎ、ヘンダーソンの看護の視点をもとに観察する 2. 受け持ち患者の日常生活に支障をきたしている患者の状況を1.をもとに判断する 3. 看護上の問題を明確にする 4. 看護上の問題を解決するための、援助計画を立案する 5. 援助計画に基づいて、安全・安楽に援助を実施する（看護師と共に実施する） 6. 患者の反応をもとに、計画の追加・修正をする 7. 自己の課題を明確にする 	臨地実習	90	各担当教員		
事前課題	日常生活に影響する要因、日常生活援助技術						
評価計画方法	出席状況、健康管理状況、実習態度などを含め、実習評価表の項目に沿って総合的に評価						
テキスト参考図書	既習のテキスト、必要な文献						
備考							

専門分野Ⅱ

- 老年看護学
- 成人看護学
- 母性看護学
- 小児看護学
- 精神看護学
- 臨地実習

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0701	曜日時間	不定期
授業科目	老年看護学概論						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	岡原 幸代						
授業目的	高齢者の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、生活の質の維持・向上を支援する医療・保健・福祉のネットワークを活用しながら、高齢者の生活の質の維持・向上を目指す看護のあり方を学ぶ						
中核	新しい老年観の構築						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活と思いに触れ、個別的で複雑な発達過程やその人の価値観・信念に関心を持つ。 2. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 3. 老いることを肯定的にとらえ、その人の生活や人権を尊重・擁護する態度で関わる。 4. 高齢者の生活を支援するための医療・看護・福祉のネットワークを知る。 5. 高齢者の健康生活を支える老年看護の特徴と役割を理解する。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	<p>I. 高齢者のケアの実践と高齢者の理解 「新しい老年観の構築」</p> <p>①加齢による形態・機能の変化と高齢者の生活困難</p> <p>②高齢者(その人)を知る－高齢者への理解－</p> <p>③高齢者(その人)の理解 －高齢者のライフヒストリー・健康観－</p> <p>④高齢者への全人的理解への手がかり －高齢者インタビュー；老年期の考察－</p> <p>⑤老年期の理解：老年期の健康 －ライフサイクル・生活の変化・多様性－</p> <p>II. 高齢者の健康と生活</p> <p>①健康状態の定義と生活の質</p> <p>②高齢者の健康や生活に影響を及ぼす要素 －社会の変化と高齢者－</p> <p>III. 自分たちが高齢者になる時代(理想の高齢期)</p> <p>①社会の動向と保健医療福祉・介護保険制度</p> <p>②認知症になっても暮らせる社会 －家族と介護、地域の連携－</p> <p>IV. 老年看護の倫理的課題と人権擁護</p> <p>①安全確保と身体拘束、権利擁護、虐待</p>	<p>講義</p> <p>・</p> <p>演習</p> <p>・</p> <p>調べ学習</p> <p>・</p> <p>グループワーク</p> <p>・</p> <p>フィールドワーク</p> <p>・</p> <p>視覚教材</p>	30	岡原 幸代		
課題等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義での実際の経験を通して、毎時ノートにリフレクションしていくこと。 2. 毎講義時には、「老年に関するニュース」を必ずひとつ見つけ、ポートフォリオに入れること。 						
評価計画方法	<p>筆記試験80%</p> <p>レポート20% (『最期まで尊厳を保った生活を送るための、多様な面からの看護ケア』1200字以上)</p> <p>*出席状況(原則全日)・提出物(毎指示に於いて)が不足している場合は最終評価の減点対象とする</p>						
テキスト参考図書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院</p> <p>医療情報科学研究所：公衆衛生がみえる メディックメディア</p>						
備考	<p>用意するもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「老年看護学」リフレクションノート 2. ポートフォリオ用のファイル1冊 3. 講義毎にハンドアウト資料を配布 						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0702	曜日時間	不定期
授業科目	老年看護学援助論Ⅰ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	岡原 幸代						
授業目的	多様な背景を持つ高齢者とその家族を尊重した援助を理解することができる。						
中核	高齢者の尊厳と生活調整技術						
授業目標	1. 高齢者の生活の質と日常生活能力の関連に関心を持つ。 2. 予備能力の保持増進と生活調整を支援する方法を理解する。 3. 高齢者の思いを受け止め、尊厳を守り、健康を支える援助を理解する。 4. 高齢者の持つ力を信じ、援助の方法を工夫・判断する。 5. 高齢者に寄り添う援助を探究する。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. 高齢者の食生活と尊厳；「食べる・息をする」 食生活上の問題：誤嚥・窒息、脱水、低栄養 2. 高齢者の排泄と尊厳；「トイレに行く」 3. 排泄の問題：便秘・下痢、尿失禁・頻尿、オムツ 4. 高齢者の清潔と尊厳；「きれいにする・衣類を整える」 清潔行動の問題：皮膚の変化、掻痒感・衣の選択 口腔の清潔と義歯 5. 高齢者の活動と休息；「眠る・動く・活動する」 高齢者の問題：睡眠障害・活動・安静の弊害 遊び・仕事・学習の問題：生活リズム 6. 高齢者のセクシュアリティと尊厳； 「セクシュアリティ・信念を守る」 役割の喪失と再構築の問題；喪失体験 7. 高齢者の安全と尊厳； 「環境」高齢者の事故の予測と防止／行動制限 8. 認知症と尊厳； 認知症の病態と要因 認知機能の評価・予防・治療 9. 認知症の人の声を聴く 10. 健康上の問題をもつ高齢者の理解と基本的対応 予備能力・適応力・回復力・防衛力の低下 残存機能維持・廃用症候群予防 11. その他症状を持つ高齢者の看護 貧血・浮腫・電解質異常・肝機能障害・めまい 感染症 12. 尊厳ある食への援助 経鼻胃チューブからの流動食注入時の援助 13. 高齢者を介護する家族への看護 高齢者を介護する家族の生活と健康 14. 高齢者の倫理問題；延命治療と尊厳死 臨床におけるジレンマを抱える状況への対応 15. まとめ・評価；パフォーマンス課題 成果発表	講義 ・ グループワーク ・ 視覚教材 ・ 調べ学習	30	岡原 幸代		
課題等	1. 全講義での実際の経験を通して、毎時ノートにリフレクションしていくこと。 2. 毎講義時には、「老年に関するニュース」を必ずひとつ見つけ、ポートフォリオに入れること。						
評価計画方法	筆記試験80% レポート20%（「高齢者と家族がその人らしく生きるための看護とは」1200字以上） 出席状況（原則全日）・提出物（毎指示に於いて）が不足している場合は最終評価の減点対象とする						
テキスト参考図書	堀内 ふき他編集：ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害，メディカ出版 堀内 ふき他編集：ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践，メディカ出版 医療情報科学研究所：公衆衛生がみえる メディックメディア						
備考	用意するもの 1. 「老年看護学」リフレクションノート 2. ポートフォリオ用のファイル1冊 3. 講義毎にハンドアウト資料を配布						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0703	曜日時間	金曜日
授業科目	老年看護学援助論Ⅱ						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	末永 久美子						
授業目的	生活調整の必要な高齢者とその家族に対しての看護を学ぶ。						
中核	医療を受ける高齢者の生活行動を整える援助						
授業目標	1. 医療を受ける高齢者の不安や困惑、生活困難に関心を寄せる。 2. 高齢者に特有な症候・疾患・障害がもたらす健康上の問題と生活困難を判断する。 3. 高齢者の健康上の問題に対する援助技術を理解する。 4. 高齢者と家族の意思決定時の支援がわかる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	I. 医療を受ける高齢者(外来通院から退院)への援助 1. 外来通院を余儀なくされる高齢者への援助 薬物療法とアドヒアランス (骨粗鬆症・パーキンソンニズム) 2. 入院が高齢者に及ぼす影響と援助 生活環境の変化と危険予測・行動制限 (大腿骨頸部骨折・せん妄・廃用症候群) 3. 手術・検査が高齢者に及ぼす影響と援助 術前検査と高齢者の合併症予防 【学内実習】 体位ドレナージ 4. リハビリテーションを受ける高齢者への援助 生活機能向上：リハビリ訓練と病棟での生活 (痛みとうつ症状) 5. 退院支援(地域連携)と高齢者を介護している家族への援助 要介護者と家族介護者・家族の介護力 6. 施設サービスにおける看護の役割 他職種との連携と協働 (認知症への取り組み：地域の実態) 7. 終末期の看護 ①高齢者の看取り ②看取りを終えた家族への看護 ③死の定義と徴候・喪失体験 ④リビングウィル ⑤高齢者と家族の意思決定支援 ⑥グリーフワーク 8. まとめ 評価	講義 グループ ワーク	16	末永久美子		
課題等	1. 全講義での実際の経験を通して、毎時ノートにリフレクションしていくこと。 2. 毎講義時には、「老年に関するニュース」を必ずひとつ見つけ、ポートフォリオに入れること。						
評価計画方法	1. パフォーマンス課題・成果発表 40% 2. 筆記テスト 50% 3. 課題・演習参加態度 10%						
テキスト参考図書	堀内 ふさ他編集：ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害，メディカ出版 堀内 ふさ他編集：ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践，メディカ出版						
備考	用意する物 1. 「老年看護学援助論Ⅱ用」リフレクションノート 2. ポートフォリオ用のファイル1冊						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0704	曜日時間	不定期
授業科目	老年看護学援助論Ⅲ						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	岡原 幸代						
授業目的	高齢者を全人的にとらえ、根拠に基づき判断し、生活の再構築を支援するプロセスを学ぶ。						
中核	高齢者の生活行動再構築						
授業目標	1. 高齢者を全人的にとらえ、情報を活用し、根拠に基づき判断し、生活の再構築を支援するプロセスを理解する。 2. 老年期の対象を捉え、生活行動に対しての援助方法を実践の中から考察する。 3. 援助の実施・評価を通して、老年看護実践における課題を発見する。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	I. 事例を用いた看護過程の展開 大腿骨頸部骨折術後・誤嚥性肺炎・嚥下障害で入院中の患者への援助 ①事例の展開 ②看護計画・根拠 グループ発表 II. 事例における援助の実施 ①生活活性化への援助 ②経鼻経管栄養チューブ交換の援助 III. 体験を通して学ぶ視点 ①羞恥心への配慮 ②自立と安全の確保における優先順位 ③身体抑制と人権 ④同一位体の苦痛・高齢者の環境整備 ⑤抑制の体験 安全と個人の尊重 IV. 学内演習後に援助計画の再考(個人) ①根拠の明確化 V. まとめ・評価 パフォーマンス課題 成果発表(個人)	講義 調べ学習 (GW/個人) 学内実習	16	岡原 幸代		
終了後課題	1. 看護過程に関連する用紙 2. レポート「私が目指す高齢者看護」1200字以上						
評価計画方法	1. パフォーマンス課題・成果発表80%、2. レポート10%、3. 提出物・演習参加態度10% 出席状況(原則全日)が不足している場合は最終評価の減点対象とする						
テキスト参考図書	堀内 ふき他編集：ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害，メディカ出版 堀内 ふき他編集：ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践，メディカ出版						
備考	用意するもの 1. 「老年看護学援助論」リフレクションノート 3. 講義毎にハンドアウト資料を配布 2. ポートフォリオ用のファイル1冊 本科目では、学生が「疾患・病態生理」、「検査・治療」を理解しているという前提で講義を実施する。これまでの学習が不十分である場合は、当該講義までに復習を行うこと。						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0801	曜日時間	不定期
授業科目	成人看護学概論						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	佐野 洋子						
授業目的	ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題、健康問題についての理解と看護の役割を学ぶ。						
中核	成人期の健康問題と看護アプローチ						
授業目標	1. ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解できる。 2. 成人期の対象がもつ健康問題と看護の役割を理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. 生活者である成人の特徴 ①発達課題 ②青年期・壮年期・向老期の特徴 2. 健康問題 ①死因と健康問題 (我が国における死因、成人各期の死因受療率、人口構成、平均寿命、健康寿命) 3. 健康問題と看護の役割 ①生命の危機的状態の看護 ②セルフマネジメントを支える看護 ③セルフケア再構築の看護 ④疾病の予防、健康増進の看護 ⑤機能障害を支える看護	講義 演習	30	佐野 洋子		
終了後課題	夏休みに健康の保持・増進するための地域や職場での取り組みを調べる。						
評価計画方法	単位終了時の筆記試験、授業態度、ルーブリック評価で総合的に評価する。						
テキスト 参考図書	安酸 史子他著：成人看護学概論，メディカ出版 厚生労働統計協会編著：国民衛生の動向，厚生労働統計協会						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0802	曜日時間	不定期
授業科目	成人看護学援助論Ⅰ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1 年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	谷山 礼明 ・ 餅原 悦子						
授業目的	呼吸機能及び循環機能障害が成人期の対象にあたる影響を理解し、呼吸機能及び循環機能障害をもつ成人の看護を学ぶ。						
中核	酸素のやりとりと生命維持						
授業目標	【呼吸機能障害、循環機能障害】 1. 呼吸機能及び循環機能の障害が理解できる。 2. 呼吸機能及び循環機能の障害が人間の生命・生活に与える影響が理解できる。 3. 呼吸機能及び循環機能を障害された対象のアセスメントができる。 4. 呼吸機能及び循環機能障害をもつ成人の看護アプローチの方法が理解できる。						
授業の内容と方法	授業内容			授業方法	時間	担当	備考
	8	1. 呼吸機能の障害 1) 呼吸機能と役割 (呼吸機能とは何か、呼吸機能と生命・生活) 2) 呼吸機能障害 (換気機能障害、通気性維持・気道の浄化機能障害、肺胞ガス交換ガス機能障害) 2. 呼吸機能の障害が生活に及ぼす影響 (呼吸機能障害がもたらす生命・生活への影響) 3. 症状アセスメントと看護 (呼吸困難、咳・痰、胸痛) 4. 検査時のアセスメントと看護 (気管支鏡検査、胸腔穿刺、呼吸機能検査、動脈血ガス分析検査) 5. 治療時のアセスメントと看護 (酸素療法、非侵襲的陽圧換気、侵襲的陽圧換気、抗アレルギー薬・気管支拡張薬・副腎皮質ステロイドによる治療) ネブライザーデモ・ストレージョン 6. 呼吸機能障害ある対象への援助 (病態にあわせた口腔ケア) 7. 肺がんで呼吸機能に障害がある人の看護	講義 演習	16	谷山 礼明		
	7	1. 循環機能の障害 1) 循環機能と役割 (循環機能とは何か、循環機能と生命・生活) 2) 循環機能障害 (ポンプ機能障害、輸送環流機能障害) 2. 循環機能の障害が生活に及ぼす影響 (循環機能障害がもたらす生命・生活への影響) 3. 緊急性と重症性のアセスメント (ショック、心不全、不整脈、胸痛) 4. 救急時の看護 5. 検査時のアセスメントと看護 (心臓カテーテル検査、心血管造影検査心電図・心エコー検査、動脈ライン) 6. 治療時のアセスメントと看護 (経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈バイパス術、血栓溶解療法・血栓除去術) 心臓リハビリ (デモ) 7. 心筋梗塞で循環機能に障害がある対象の看護	講義 演習	14	餅原 悦子		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験、授業中の態度から総合的に評価する。						
テキスト 参考図書	呼吸機能障害 佐伯 由香他著:健康の回復と看護①呼吸機能障害・循環機能障害, メディカ出版、 参考図書: 上塚 芳郎他著:成人看護学②呼吸器, 医学書院、 循環機能障害 佐伯 由香他著:健康の回復と看護①呼吸機能障害・循環機能障害, メディカ出版、 参考図書: 浅野 浩一郎他著:成人看護学③循環器, 医学書院、 参考図書: 飯野 京子他著:成人看護学④血液・造血器, 医学書院						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0803	曜日時間	不定期
授業科目	成人看護学援助論Ⅱ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1 年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	岩道 一也 ・ 田原 真美代						
授業目的	消化吸収機能障害及び栄養代謝機能障害が成人期の対象にあたる影響を理解し、消化吸収機能及び栄養代謝機能障害をもつ成人の看護を学ぶ。						
中核	栄養素のやり取りと生命維持						
授業目標	【消化吸収機能障害、栄養代謝機能障害】 1. 消化吸収機能及び栄養代謝機能の障害が理解できる。 2. 消化吸収機能及び栄養代謝機能の障害が人間の生命・生活に与える影響が理解できる 3. 消化吸収機能及び栄養代謝機能が障害された対象のアセスメントが理解できる。 4. 消化吸収機能及び栄養代謝機能の障害をもつ成人の看護アプローチの方法が理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	1. 消化吸収機能の障害 1) 消化・吸収機能と役割 ①消化・吸収機能とは何か (摂取機能、嚥下機能、移送機能、消化・吸収機能、糞便形成・排出機能) ②消化・吸収機能と生命・生活 2) 消化・吸収機能の障害 2. 消化吸収機能の障害が生活に及ぼす影響 (消化吸収機能障害をもたらす生命・生活への影響) 3. 症状アセスメントと看護 (食欲不振、悪心、嘔吐、イレウス、便秘、下痢、下血、腹痛腹部膨満) 4. 検査時のアセスメントと看護 (上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査、消化管造影、消化・吸収機能検査) 5. 治療時のアセスメントと看護 (化学療法、麻薬等) 緩和ケア・麻薬の使用方法 (デモ) 人工肛門造設術法、中心静脈栄養法 ストーマ管理 (デモ) 6. 大腸がんで消化・吸収機能に障害がある対象の看護	講義 演習	16	岩道 一也		

成人看護学援助論Ⅱ No.2

	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考
授業の内容と方法	7	<p>栄養代謝機能の障害</p> <p>1) 栄養代謝機能とその役割 栄養代謝機能とは何か 栄養代謝機能と生命・生活</p> <p>2) 栄養代謝機能とその障害</p> <p>栄養代謝機能の障害が生活に及ぼす影響 (栄養代謝機能の障害をもたらす生命・生活への影響)</p> <p>症状アセスメントと看護 (肥満、るいそう、肝不全、動脈硬化)</p> <p>検査時のアセスメントと看護 (血液検査、肝生検、内視鏡的逆行性胆管膵管造影法等)</p> <p>治療時のアセスメントと看護 (肝底療法、インターフェロン療法、手術療法)</p> <p>肝硬変で栄養代謝機能に障害がある対象の看護</p> <p>胆石症で栄養代謝機能に障害がある対象の看護</p>	講義 演習	14	田原 真美代	
終了後課題						
評価計画方法	筆記試験、授業中の態度から総合的に評価する。					
テキスト参考図書	赤石 恵子他著：健康の回復と看護②栄養代謝機能障害, メディカ出版 参考図書：金田 智他著:成人看護学⑤消化器, 医学書院 参考図書：吉岡 成人他著:成人看護学⑥内分泌・代謝, 医学書院					
備考						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0804	曜日時間	不定期
授業科目	成人看護学援助論Ⅲ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	押領司 恵 ・ 沢田 亜紀 ・ 落合 麻衣子 ・ 亀澤 秀一						
授業目的	内部環境調節機能障害、身体防御機能障害が成人期の対象にあたる影響を理解し、内部環境調節機能及び身体防御障害をもつ成人の看護を学ぶ。						
中核	内部環境を整え生命力アップ						
授業目標	【内部環境調節機能障害、身体防御機能障害】 1. 内部環境調節機能、身体防御機能の障害が理解できる。 2. 内部環境調節機能、身体防御機能の障害が人間の生命・生活に与える影響が理解できる 3. 内部環境調節機能、身体防御機能が障害された対象のアセスメントが理解できる。 4. 内部環境調節機能、身体防御機能の障害をもつ成人の看護アプローチの方法が理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	2	1. 体温調節機能（甲状腺機能、下垂体機能含む）の障害 （体温調節機能と役割、体温調節機能とその障害） 2. 体温調節機能の障害が生活に及ぼす影響 （体温調節機能の障害が生命・生活にあたる影響） 3. 症状アセスメントと看護 （高体温、低体温） 4. 検査・治療時のアセスメントと看護 （ホルモン検査、ホルモン治療、甲状腺切除術） 5. 甲状腺がんで体温調節機能に障害がある対象の看護	講義	4	押領司 恵		
	4	1. PH調節機能の障害 （PH調節機能と役割、PH調節機能とその障害） 2. PH調節機能の障害が生活に与える影響 （PH調節機能の障害が生命・生活にあたる影響） 3. 症状アセスメントと看護 （呼吸性アシドーシス、呼吸性アルカローシス、 代謝性アシドーシス、代謝性アルカローシス） 4. 検査・治療時のアセスメントと検査 （腎生検、腎機能検査、造影検査、透析、腎移植） 5. 腎不全でPH調節機能に障害がある対象の看護	講義	8	沢田 亜紀		

成人看護学援助論Ⅲ No.2

	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考
授業の内容と方法	5	1. 血糖調節機能の障害 2. 血糖調節機能障害が生活に及ぼす影響 3. 症状アセスメントと看護 (高血糖、低血糖) 4. 検査・治療時のアセスメントと看護 (糖負荷試験、血糖測定、インスリン補充療法、内服治療、運動療法、食事療法等) 5. 糖尿病で血糖調節機能に障害がある対象の看護 6. 演習 (簡易血糖測定、インスリンの打ち方) 7. 演習 (フットケア)	講義 演習	10	落合 麻衣子	
	4	1. 身体防御調節機能の障害 (身体防御機能と役割、身体防御機能とその障害) 2. 身体防御調節機能の障害が生活に及ぼす影響 (身体防御機能障害が生命・生活にあたる影響) 3. 症状アセスメントと看護 (発疹、創傷、褥瘡、熱傷、感染、アレルギー、自己免疫異常、免疫不全、止血の障害) 4. 検査・治療時のアセスメントと看護 (骨髄穿刺、生検、抗HIV療法、減感作療法、免疫抑制剤、ステロイド療法) 5. 白血病で身体防御機能に障害がある対象の看護	講義	8	亀澤 秀一	
終了後 課題						
評価計画 方法	筆記試験、授業中の態度から総合的に評価する。					
テキスト 参考図書	林床健二他著：ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害／生・生殖機能障害，メディカ出版 赤石 恵子他著：健康の回復と看護② 栄養代謝機能障害 メディカ出版(落合先生) 矢野久子著：ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護③ 造血機能／免疫機能障害，メディカ出版(亀澤先生) 参考図書： 大東 貴志他著：成人看護学⑧腎・泌尿器，医学書院 吉岡 成人他著：成人看護学⑥内分泌・代謝，医学書院 岩田 健太郎他著：成人看護学⑪アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 飯野 京子他著：成人看護学④血液・造血器，医学書院					
備考						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0805	曜日時間	不定期
授業科目	成人看護学援助論Ⅳ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	森岡 弓恵 ・ 西村 久実						
授業目的	性・生殖機能障害、運動機能障害、脳神経機能障害、感覚機能障害が成人期の対象にあたる影響を理解し、それらの機能障害をもつ成人の看護を学ぶ。						
中核	生活行動と人間関係						
授業目標	<p>【性・生殖機能障害、運動機能障害、脳神経機能障害、感覚機能障害】</p> <p>1. 性・生殖機能、運動機能、脳神経機能、感覚機能の障害が理解できる。</p> <p>2. 性・生殖機能、運動機能、脳神経機能、感覚機能の障害が人間の生命・生活に与える影響が理解できる。</p> <p>3. 性・生殖機能、運動機能、脳神経機能、感覚機能が障害された対象のアセスメントが理解できる。</p> <p>4. 性・生殖機能、運動機能、脳神経機能、感覚機能の障害をもつ対象の看護が理解できる。</p>						
授業の内容と方法		授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	2	<p>1. 性・生殖機能・性ホルモンの障害</p> <p>2. 性・生殖機能障害のある患者の看護 (疾患の経過と看護・外来・病棟・診療介助における看護)</p> <p>3. 症状とその病態に対する看護 臓器別疾患・機能的疾患患者の看護</p> <p>4. 手術・化学療法・放射線療法・ホルモン療法・体外受精を受ける患者の看護 まとめ</p>	講義	4	森岡 弓恵		
	6	<p>1. 運動機能の障害 運動機能と役割（姿勢機能、移動機能、作業機能） 運動機能とその障害</p> <p>2. 運動機能の障害が生活に及ぼす影響 運動機能障害をもたらす生命・生活の影響</p> <p>3. 症状アセスメントと看護 (起座困難、体位交換困難、歩行困難、把持困難、網羅性困難、ADL困難、疼痛)</p> <p>4. 検査・治療時のアセスメントと看護 (筋生検、骨髄造影、椎間板造影、膝関節鏡検査、膝関節液検査、ギプス固定、牽引法、ポジショニングへの援助)</p> <p>5. 疾患により運動機能に障害がある対象の看護 (椎間板ヘルニア、骨折)</p> <p>6. 演習（包帯法、三角布）</p>	講義 演習	12			

成人看護学援助論Ⅳ No.2

	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考
授業の内容と方法	7	1. 脳神経機能と日常生活 脳神経機能と役割(生命活動調節機能、運動調節機能) 運動機能とその障害 運動機能障害をもたらす生命・生活への影響 2. 脳神経機能障害をもち生活する人の看護 (意識障害、運動麻痺、神経障害、言語機能障害、失認・失行、排尿障害) 3. 検査で影響を受け生活する人の看護 (髄液検査、脳血管造影、脳波検査) 4. 治療で影響を受け生活する人の看護 (開頭術、穿頭術、血管バイパス術、血栓溶解療法、動脈瘤塞栓術、脳室ドレナージ、脳室-腹腔シャント術、低体温療法) 5. 脳梗塞で脳神経機能に影響を受け、生活する人の看護 6. 脊髄損傷で脳神経機能に影響を受け、生活する人の看護 7. 頭部外傷で脳神経機能に影響を受け脳死状態で、生活する人の看護 8. 感覚機能障害をもつ人の看護 1) 感覚機能と日常生活 2) 感覚機能障害をもち生活する人の看護 3) 検査・治療で影響を受け生活する人の看護 4) 疾患により感覚機能に影響を受け、生活する人の看護	講義 演習	14	西村 久実	
終了後 課題						
評価計画 方法		筆記試験、リフレクションノート、授業中の態度から総合的に評価する。				
テキスト 参考図書		末岡 浩他著： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護④ 脳・神経機能障害・感覚機能障害, メディカ出版 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑤ 運動機能障害, メディカ出版 参考図書： 林正健二編：健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 メディカ出版 野口 美和子他著：機能障害からみた成人看護学④，メヂカルフレンド社 織田 弘美他著：成人看護学⑩運動器，医学書院 井手 隆文他著：成人看護学⑦脳・神経，医学書院 岩田 健太郎他著：成人看護学⑪アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 大東 貴志他著：成人看護学⑧腎・泌尿器，医学書院 大鹿 哲郎他著：成人看護学⑬眼，医学書院 小松 浩子他著：成人看護学⑭耳鼻咽喉，医学書院 渡辺 晋一他：成人看護学⑫皮膚，医学書院 渋谷 絹子他著：成人看護学⑮歯・口腔，医学書院				
備考		どのテキストが必要かその都度確認して臨むこと				

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0806	曜日時間	不定期
授業科目	成人看護学援助論Ⅴ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	佐野 洋子						
授業目的	各成人看護学援助論で学んだ知識や看護の思考過程を活用し、手術を受ける対象の援助を学ぶ。						
授業中核	急激な変化と対応						
授業目標	1. 手術により、どのような機能が障害されるのかを理解する。 2. 手術が、成人期の対象にどのように影響するのか理解する。 3. 周手術期の援助の方法が理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. 科目ガイダンス 2. 膀胱カテーテル留置の目的、方法、留意点 3. 膀胱留置カテーテル挿入 学内実習 4. 手術後起こり得る機能障害を予測、手術直後の環境を考える 5. 手術後環境調整 学内実習 手術後ベッド、部屋の準備 輸液ポンプ・シリンジポンプの使い方 6. 手術後起こり得る機能障害を考える 7. 機能障害が患者の生活にどのように影響を及ぼしているのか考える 8. 対象の看護上の課題を明確にする。 9. 対象の援助計画を立案する。 10. 発表 11. 思考過程のまとめ 12. なぜ、看護師が手術を受ける患者に援助を行うのか	講義 演習 学内実習	30	佐野 洋子		
終了後課題	思考過程を提出。演習後リフレクションシート。						
評価計画方法	看護過程、演習、振り返りレポート、授業態度から総合的に評価する。						
テキスト参考図書	既習したすべてのテキスト						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0901	曜日時間	不定期
授業科目	母性看護学概論						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2 年次前期	授業形態	講義
担当教員	森岡 弓恵						
授業目的	リプロダクティブ・ヘルス/ライツおよび女性の一生を通しての健康の保持・増進と母性機能を円滑に遂行していくための母性看護の役割について学習する。						
中核	母性の獲得とライフサイクル						
授業目標	1. 母性看護の基盤となる概念と母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について学習する。 2. 女性のライフステージ各期における看護についてその時期の特徴や健康問題との関係から学習する。 3. 女性の生涯を通じた健康の保持・増進の視点からリプロダクティブヘルスに関する健康課題と看護について学習する 4. 母性看護を実践するための重要な法令について学習する。						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	15	I. 母性看護の対象理解 1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 母性の発達・成熟・継承（性の発達・母子関係・母性の伝承） 3) 女性のライフサイクル、ライフイベントと家族の発達段階 II. 母性看護の基盤となる概念 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達・セクシャリティ 3) リプロダクティブヘルス/ライツ 4) 母性看護のあり方と理念 5) 母性看護における倫理 III. 母性の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 母性看護の変遷・母子保健統計の動向 2) 母性看護に関する組織と法律・施策 3) 母性看護の対象を取り巻く環境 家族・地域社会・生物学的環境・社会文化的環境 IV. 女性のライフステージ各期における看護 1) ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 2) 思春期・成熟期・更年期・老年期の対象における生理的問題と看護の実践 V. リプロダクティブヘルスケア 1) 現代社会における母性の健康をめぐる課題と看護 VI. 母性看護に必要な看護技術 VII. まとめ・評価		講義 ・ グループ ワーク	30	森岡 弓恵	
終了後課題							
評価計画方法	レポート・筆記試験						
テキスト参考図書	中込さと子他編： 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版 参考文献：森 恵美他著：系統看護学講座 母性看護学[1]母性看護学概論 医学書院 厚生労働統計協会編著：国民衛生の動向 厚生労働統計協会						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0901	曜日時間	不定期
授業科目	母性看護学援助論Ⅰ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	黒木 富士子 ・ 藤井 智子 ・ 森岡 弓恵						
授業目的	妊娠・分娩・産褥各期における母性の特徴を理解し、対象に応じた看護の方法を理解する。						
中核	生命の誕生（正常な妊娠・分娩・産褥の経過）						
授業目標	1. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦の生理的変化・潜在的な問題を理解できる。 2. 対象と家族に対する健康の維持・潜在的な問題が生活にあたる影響と援助方法を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	5	I. 妊婦の看護 妊婦の生理 妊婦と胎児のアセスメント 妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント II. 産婦の看護 分娩の生理 産婦と胎児のアセスメント III. 褥婦の看護 産褥の生理 褥婦のアセスメントと看護 IV. 母乳育児と看護 母乳育児の特性 乳房の構造と機能・乳汁分泌メカニズム IV. 新生児の看護 新生児の生理 新生児のアセスメント 新生児期のケア	講義	10	黒木 富士子		
	2	V. 母性の発揮を促す看護 1) 母性を支える看護の実際 ・ 遺伝子相談や不妊治療を考える対象に対しての看護援助	講義	4	森岡 弓恵		
	8	VI. 妊娠期における看護 1) 妊娠期の母性を支える看護の実際(学内演習を含む) ・ 妊婦健診における母体測定法 ・ 母親学級における妊婦の出産準備と生活指導 ・ 出産育児の不安についての指導場面 VII. 分娩期・産褥期における看護 1) 分娩・産褥期の母性を支える看護の実際 ・ 産褥婦と家族の潜在的問題と援助（ニード・産痛の緩和） ・ 産褥期の身体的生理的変化（退行性変化・進行性変化）と生活に与える影響と援助 ・ 産褥期の心理・社会的変化と生活に与える影響と援助 ・ 退院にむけての支援 VIII. 新生児の看護 1) 母性を支える看護の実際 ・ 新生児の出生後計測と経過看護（アプガースコア・新生児計測・黄疸計測等） ・ 新生児の行動と母子関係評価 IX. まとめ・評価	講義 演習	16	藤井 智子	デモンストレーション演習を含める	
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験 授業態度等						
テキスト参考図書	小林康江他編：ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実際 メディカ出版						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0901	曜日時間	不定期
授業科目	母性看護学援助論Ⅱ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	黒木 富士子 ・ 森岡 弓恵						
授業目的	妊産褥婦の異常及び新生児の正常と異常を理解し、対象に応じた看護の方法を理解する。						
中核	生命の誕生（異常な妊娠・分娩・産褥の経過）						
授業目標	1. 妊娠・分娩・産褥及び新生児各期に起こりやすい機能の障害、顕在的・潜在的な問題を理解する。 2. 機能の障害をもった母子への援助を行うための基礎知識を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	7	I. 妊娠期の異常 1) 異常な妊娠経過 II. 分娩期の異常 1) 異常な分娩経過 III. 産褥の異常 1) 異常な産褥経過 2) 特殊なニーズをもつ妊産婦と家族への支援 IV. 新生児の異常 1) 異常な出生と新生児の経過	講義	14	黒木 富士子		
8	V. 妊娠の異常と看護 1) 妊娠期の異常と看護のポイント 健康教育・胎児の健康状態の継続管理・家族間の信頼関係を支える看護 個々のニーズへの対応・必要な社会資源の提供 VI. 分娩の異常と看護 1) 分娩期の異常と看護のポイント VII. 産褥の異常と看護 1) 産褥期の異常と看護のポイント 乳房・乳頭トラブル・帝王切開後の看護 流産・死産後の女性と家族への看護 先天異常・障害をもつ新生児の家族への看護 VIII. 新生児の異常と看護 1) ハイリスク新生児の特徴 2) 新生児期における呼吸・循環・代謝の適応不全 3) 新生児期における体温調節・消化器系の異常 4) 母体疾患と新生児の異常 5) 早産児・低出生体重児・先天異常がある新生児 IX. 特殊なニーズをもつ妊産褥婦と家族への支援 X. まとめ・評価	講義 演習	16	森岡 弓恵	デモンストラ レーション 演習を含む		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験 授業態度						
テキスト参考図書	小林康江他編：ナーシンググラフィカ 母性看護学②，メディカ出版 ・ 森 恵美他著：母性看護学②母性看護学各論，医学						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0901	曜日時間	不定期
授業科目	母性看護学援助論Ⅲ						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	森岡 弓恵						
授業目的	周産期にある母子の健康状態を観察、アセスメントするための母性看護技術ならびに褥婦と新生児の健康を高めるための援助技術の基本を学ぶ。また、褥婦と新生児の特性や看護援助の知識を活用し、事例を基に看護過程を展開する。						
中核	生命誕生の場における看護過程の展開と援助						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期にある母子の健康状態を観察・評価するための母性看護技術を習得する。 2. 対象の健康状態を評価するためのアセスメントの基本を理解する。 3. 対象の疾病予防ならびに健康状態を高める援助技術の基本を理解する。 4. 事例を基に褥婦の看護過程を展開する。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	<p>I. 妊娠期における看護過程の展開（事例検討）</p> <p>1) 正常経過妊婦の事例展開</p> <p>(1) アセスメントと看護診断</p> <p>II. 産褥期における看護過程の展開（事例検討）</p> <p>1) 正常経過褥婦・新生児の事例展開</p> <p>(産褥1日目・3日目)</p> <p>(1) アセスメントと全体像・看護診断</p> <p>(2) 疾病予防と健康増進の具体策</p> <p>(3) 援助計画のロールプレイ</p> <p>援助（指導計画）とパンフレットを用いた指導の実際</p> <p>III. 事例の特性に応じた援助技術</p> <p>パフォーマンス課題提示</p> <p>1) 沐浴演習</p> <p>IV. まとめ・評価</p>	講義 実習 ロールプレイ	15	森岡 弓恵		
終了後課題	凝縮ポートフォリオ提出（紙ファイルに綴じる）						
評価計画方法	提出物（60％）筆記試験（40％）						
テキスト参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・小林康江他編：ナーシンググラフィカ，母性看護学①②③，メディカ出版 ・森 恵美他著：母性看護学②母性看護学各論，医学書院 						
備考	①マタニティ診断ブック第5版 日本助産診断・実践研究会著 ②紙ファイル ①②各自準備すること						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1001	曜日時間	不定期
授業科目	小児看護学概論						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義
担当教員	上原 由加里						
授業目的	小児の健全な成長・発達を促進するための看護を学ぶために、小児の健康問題、社会の中の小児の生活を理解する。さらに病気・障害が小児の生活にあたる影響を理解し、小児看護の果たすべき役割について学ぶ。						
中核	子どもと家族						
授業目標	1. 小児看護の役割と倫理および最善の利益について理解できる。 2. 健全な成長・発達を理解できる。 3. 小児の生活の場としての環境を理解できる。 4. 健全な成長発達を促すための看護を学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児看護の目ざすところ 2) 小児と家族の諸統計 3) 小児看護の変遷と倫理と課題 2. 子どもの成長・発達 1) 成長・発達と進み方 2) 成長・発達に影響する因子 3) 成長と発達の評価 3. 小児看護における理論 4. 子どもの発達段階と遊び 発表 5. 新生児 1) 新生児の特徴と発達 2) 新生児の療育および看護 6. 乳児 1) 乳児の特徴と機能 2) 乳児の療育および看護 7. 幼児 1) 幼児の特徴と機能 2) 幼児の療育および看護 8. 学童 1) 学童の特徴と機能 2) 学童の不応行動・症状 3) 学童を取り巻く諸環境 4) 学童の療育および看護 9. 思春期・青年期の子ども 1) 形態的・身体生理の特徴 2) 知的・心理的・社会的機能 3) 問題と行動 4) 思春期の看護 10. 子どもの栄養 1) 意義と食育 2) 乳児期・幼児期・学童期・思春期の栄養 11. 家族の特徴とアセスメント 1) 子どもにとっての家族とは 2) 家族アセスメント 12. 子どもと家族を取り巻く社会① 1) 児童福祉・母子保健 2) 医療費の支援 13. 子どもと家族を取り巻く社会② 予防接種 14. 子どもと家族を取り巻く社会③ 学校保健 15. まとめ・評価	講義	30	上原 由加里		
終了後課題	リフレクションノート提出						
評価計画方法	講義後小テスト、筆記試験、リフレクションノート、授業中の態度から総合的に評価する。						
テキスト参考図書	奈良間 美保他著：小児看護学①小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院 厚生労働統計協会編著：国民衛生の動向，厚生労働統計協会 筒井真優美監修：小児看護学第8版，日総研						
備考	A4サイズのリフレクションノートとクリアファイル（ポートフォリオ）を準備すること						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1002	曜日時間	不定期
授業科目	小児看護学援助論Ⅰ						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	上原 由加里						
授業目的	病気・障害をもつ小児と家族の看護について学ぶ。						
中核	子どもとその家族の体験の支援						
授業目標	1. 病気・障害をもつ小児と家族の生活と看護について理解できる。 2. 病気・障害に伴う症状を示す小児の看護について理解できる。 3. 検査・治療を受ける小児の看護について理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 2. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 入院中の子どもと家族の看護 外来における子どもと家族の看護 3. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 1) 在宅療養中の子どもと家族の看護 2) 災害時の子どもと家族の看護 3) 子どもにおける疾病の経過と看護 慢性期/急性期/周手術期/終末期にある子どもと家族の看護 4. 子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 2) 身体的アセスメント 5. 症状を示す子どもの看護 主症状と看護 ・発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水・発疹 ・出血・貧血・発疹・黄疸 6. 症状を示す子どもの看護 緊急時の看護 ・呼吸困難・チアノーゼ・ショック・意識障害・痙攣 7. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 検査・処置総論 2) 薬物動態と薬用量の決定 3) 検査処置各論 8. 障害のある子どもと家族の看護 子どもの虐待と看護 9. 小児看護に必要な技術 1) バイタルサインチェック 2) 身体計測、ベッド柵の取り扱い、オムツ交換 3) 輸液中の管理 4) 薬物療法 10. 評価・まとめ	講義 演習	16	上原 由加里		
評価計画方法	講義後小テスト・リフレクションノート・筆記試験・授業中の態度から総合的に評価する						
テキスト参考図書	奈良間 美保他著：小児看護学①小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院						
備考	A4サイズのリフレクションノートとクリアファイル（ポートフォリオ）を準備すること						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1003	曜日時間	不定期
授業科目	小児看護学援助論Ⅱ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義
担当教員	四元 茂 ・ 布井 博幸 ・ 上原 由加里						
授業目的	小児に特有の小児疾患によりどのような機能が障害され、生活に影響をあたえるのかを理解し、小児疾患をもつ小児と家族の看護を学ぶ。						
中核	子どもの機能の障害と対応						
授業目標	1. 病気・障害の原因となる小児疾患に特有な病態・症状・診断・治療を学ぶ。 2. 小児疾患がどのような機能障害をおこし、生活に影響をあたえるのか理解できる。 3. 小児疾患により機能障害をおこしている小児と家族の援助方法を理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	5	1. 染色体異常 2. 感染症（ウイルス） 3. 感染症（細菌・その他） 4. 呼吸器疾患・循環器疾患・消化器疾患 5. 呼吸器疾患・循環器疾患・消化器疾患		講義	10	四元茂	
	5	1. 新生児疾患 2. 代謝・内分泌疾患 3. 免疫・アレルギー疾患 4. 血液・悪性新生物疾患・腎疾患 5. 神経疾患・精神疾患（発達障害）・その他		講義	10	布井博幸	
	5	1. ハイリスク新生児と看護 低出生体重児の看護 2. 機能障害の原因となる疾患と看護 代謝性疾患と看護、内分泌疾患と看護、アレルギー疾患と看護、感染症と看護、消化器疾患と看護 呼吸器疾患と看護、循環器疾患と看護、血液・造血器疾患と看護、悪性新生物と看護、腎・泌尿器疾患と看護、運動器疾患と看護、感覚器疾患と看護 3. 事故・外傷と看護 4. 評価・まとめ		講義	10	上原由加里	
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験、リフレクションノート、授業中の態度から総合的に評価する。						
テキスト参考図書	奈良間 美保他著：小児看護学②小児臨床看護各論，医学書院						
備考	A4サイズのリフレクションノートとクリアファイル（ポートフォリオ）を準備すること						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1004	曜日時間	不定期
授業科目	小児看護学援助論Ⅲ						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	上原 由加里						
授業目的	小児看護学で学んだ知識を基に、機能障害が小児と家族の生活にあたえる影響を理解し、具体的な看護の方法を学ぶ。						
中核	機能の障害をもつ子どもとその家族の成熟過程の支援						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発達を踏まえた全体像と、家族のアセスメント方法について理解できる。 2. 機能障害が小児と家族の生活にあたえる影響を理解し、看護過程を展開できる。 3. 具体的な看護計画が立案できる。 4. 看護の実際を学内実習で実施できる。 5. 実施した学内実習を振り返り、自己の課題を見出すことができる。 						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	<p>事例を用いた看護過程の展開 「気管支喘息」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集 2. アセスメント 3. 全体像 4. 援助計画立案 5. 処置を受ける子どもの看護の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・プレパレーション ・ピークフロー測定と記録 ・ネブライザー吸入 6. 評価・修正 <p>「川崎病」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集 2. アセスメント 3. 全体像 4. 援助計画立案 5. 処置を受ける子どもの看護の実際（学内演習） <ul style="list-style-type: none"> ・プレパレーション ・ディストラクション ・点滴挿入時の方法と看護 6. 評価・修正 	演習 講義	16	上原 由加里		
終了後課題	ポートフォリオ提出						
評価計画方法	筆記試験、看護過程、演習、リフレクションノート、授業態度から総合的に評価する。						
テキスト 参考図書	奈良間 美保他著：小児看護学①小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院 奈良間 美保他著：小児看護学②小児臨床看護各論，医学書院						
備考	A4のリフレクションノートとクリアファイル（ポートフォリオ）準備して下さい。						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1101	曜日時間	不定期
授業科目	精神看護学概論						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	1 年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	細山田 美雪						
授業目的	1. 機能障害の1つであり、対象特性別である精神看護学の目的と役割を学ぶ。 2. 精神の健康と保持・増進に向けた看護を理解する。 3. 精神疾患を持つ人の人権と安全を守るための法・制度を理解する。						
中核	精神看護に必要な主要概念						
授業目標	1. 精神機能障害に対する生活調整のための援助の目的と役割を理解できる。 2. あらゆるライフステージのこころの発達を理解できる。 3. 機能障害の原因でもある疾患や生活の危機状況や人間関係との関連を理解できる。 4. こころの動きと生活の影響を考察できる。 5. 精神保健福祉活動と法制度を理解し、その人に必要な援助を考える。 6. 地域精神保健の傾向を理解し、地域の取り組みを考える。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	1. 精神看護とは 2. 精神（こころ）のとらえ方 1) 脳の構造と認知機能 2) 精神（こころ）の構造と働き ・精神力動理論、自我の防衛機制 3. 精神（こころ）の発達に関する主要な考え方 1) 発達理論 4. 危機（クライシス） 1) 危機の概念 ・危機理論、危機モデル 2) 危機介入 3) 危機と予防 4) ストレスと対処 ・ストレスコーピング、セルフマネジメント 5. 環境と精神（こころ）の健康 1) 家族と精神 2) 暮らしの場（学校、職場・仕事、地域における生活） 6. 現代社会と精神（こころ）の健康 1) 現代社会の特徴 2) 現代社会における精神保健の主な問題 3) 自分たちの住む地域の問題 7. 精神保健医療福祉の歴史と法制度 1) 精神医療の歴史 2) 患者の権利擁護（アドボカシー） 2) 精神保健及び精神障害に関する法律 3) 精神保健医療福祉に関連する法制度 8. まとめ・評価	講義 グループワーク	30	細山田 美雪	パフォーマンス課題	
終了後課題	リフレクションノート、パフォーマンス課題						
評価計画方法	提出物（20%）、筆記試験（80%）						
テキスト参考図書	渡邊博幸他著：精神看護学①精神看護学概論精神保健，メヂカルフレンド社 厚生労働統計協会編著：国民衛生の動向，厚生労働統計協会						
備考	準備：リフレクション用のノート、ポートフォリオ用のクリアファイル						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1102	曜日時間	不定期
授業科目	精神看護学援助論Ⅰ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義・演習
担当教員	戸高 一成 ・ 細山田 美雪						
授業目的	1. 精神機能障害の原因を疾患から理解し、必要な検査や治療を学ぶことでその人に応じた援助方法を考える。 2. 精神機能障害のある人との関わり方を学ぶ。						
中核	精神障害を持つ人の理解						
授業目標	1. 疾患がひきおこす機能障害について理解できる。 2. 精神機能障害が影響するその人の生活を理解できる。 3. 精神疾患・精神症状への援助を学ぶ。 5. その人の接近法や対人援助技術が理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	10	1. 精神障害を持つ人の抱える症状と診断のための検査 1) 精神（こころ）の働きと精神症状・状態像 2) 精神科的診察 2. 主な精神疾患/障害と治療方法 1) 精神疾患/障害の診断基準・分類 2) 主な精神疾患/障害の疾患概念/定義、症状、治療/支援 3) 主な治療法 (薬物療法、電気けいれん療法、リハビリテーション療法、精神療法)	講義	20	戸高 一成		
	5	1. 精神医療・看護の対象者 2. 「患者・看護師」関係の構築 3. プロセスレコードの活用 4. まとめ・評価	講義 グループワーク	10	細山田 美雪		
終了後課題	リフレクションノート、プロセスレコード						
評価計画方法	筆記試験（90%）、提出物（10%）						
テキスト参考図書	渡邊博幸他著：精神看護学②精神障害を持つ人の看護，メヂカルフレンド社						
備考	精神看護学概論で使用したリフレクションノート、ポートフォリオを継続して使用						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1103	曜日時間	不定期
授業科目	精神看護学援助論Ⅱ						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義
担当教員	山毛 直樹 ・ 林 利也						
授業目的	1. 精神機能障害をもつ人への看護を学び、対象に必要な援助を考察する。 2. 社会復帰のために必要な保健・医療・福祉制度を学ぶ。						
中 核	精神科看護、社会復帰へ向けた援助						
授業目標	1. 精神機能障害を持つその人の生活を調整するために、日常生活行動の視点で捉え、機能障害を理解できる。 2. 機能障害の要因である生活習慣や、生活と密接している家族との関連を理解できる。 3. その人が自力で生活を調節するための援助方法を学ぶ。 4. その人との接近法や対人援助技術を活用するための方法を理解できる。 5. その人を支える社会資源について学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	4	1. 精神障害を持つ人への看護 1) 精神科病棟という治療的環境と患者の生活 2) 事故防止・安全管理と倫理的配慮 2. 精神疾患/障害を持つ患者への看護 3. 身体疾患を合併している患者への看護	講義	8	山毛 直樹		
4	1. 地域における生活への支援 1) 地域精神保健福祉と社会参加 2) 長期入院患者の地域生活への移行支援 3) 社会資源の活用 4) 家族などへの支援 2. 精神看護の発展的展開 1) リエゾン精神看護 2) 司法精神医学と看護 3) 災害時の精神保健 3. 評価	講義 グループ ワーク	8	林 利也			
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験						
テキスト参考図書	渡邊博幸他著：精神看護学②精神障害を持つ人の看護，メヂカルフレンド社						
備 考	準備：ポートフォリオ用のクリアファイル 各先生で補講をする場合があります。						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1104	曜日時間	不定期
授業科目	精神看護学援助論Ⅲ						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義演習
担当教員	細山田 美雪						
授業目的	1. 精神障害をもつ人の事例を通して、社会復帰活動を考える。 2. 精神障害を持つ人の安全、社会参加の促進を考えたレクリエーションを実施する。						
中核	精神障害を持つ人の看護援助の展開						
授業目標	1. 精神障害を持つ人の看護過程の展開ができる。 2. レクリエーションの目的を理解し、安全に配慮した企画ができる。 3. レクリエーションを安全に実施し評価できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	1. 精神障害を持つ人への看護援助の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護援助の基本構造 <ul style="list-style-type: none"> ・こころの正常と異常のアセスメント ・こころの健康のアセスメント ・精神健康度のアセスメント ・自我の防衛機制 2) 看護理論の必要性 3) 患者による自己管理 <ul style="list-style-type: none"> ・セルフマネジメント ・服薬自己管理 ・病気の自己管理 3) ヘンダーソンモデルにもとづく看護過程の展開 2. レクリエーションの企画・実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) レクリエーションの企画書作成 2) レクリエーション実施 3) レクリエーションの評価 	講義 グループワーク 学内実習	16	細山田 美雪		
終了後課題	ポートフォリオ（看護過程）、レクリエーション企画書						
評価計画方法	提出物（40%）、筆記試験（60%）						
テキスト参考図書	渡邊博幸他著：精神看護学①精神看護概論精神保健，メヂカルフレンド社 渡邊博幸他著：精神看護学②精神障害を持つ人の看護，メヂカルフレンド社						
備考	準備：クリアファイル1冊						

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0705	曜日時間	1～2月		
授業科目	老年看護学実習Ⅰ								
単位数	2 単位		時間	90 時間		開講時期	2年次後期	授業形態	臨地実習
担当教員	岡原 幸代								
授業目的	地域で生活する高齢者について理解し、高齢者のQOLを考えた援助と看護師の役割を理解する。								
中核	地域で暮らす高齢者のQOLと支援								
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護老人保健施設を利用している高齢者を通して、対象であるその人と家族を理解する。 2. 生理的变化がその人により異なることを理解し、生活調整の方法を学ぶ。 3. その人のもてる力を引き出す援助方法を理解する。 4. その人の生活史を理解し、信念・信条・生き方・価値観を尊重した行動をとる。 5. 社会資源の活用方法を知り、保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する。 								
授業の内容と方法	日	授業内容			授業方法	時間	担当	備考	
	12日間	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習における留意点 ・記録指導・技術指導 <p>対象の生活の場である施設の理解</p> <p>看護の対象の理解(高齢者とその家族)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーション <p>老年期の生活の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活史の理解と信念・信条・生き方・価値観の尊重 <p>生理的变化と生活調整の方法の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の個別性の理解 <p>もてる力を引き出す援助方法の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残存機能の維持と向上、もてる能力の理解 ・生活活性化レクリエーション <p>高齢者の生活史の理解と尊厳の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信念、信条、生き方、価値観の尊重 <p>社会資源の活用方法と看護師の役割の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスへの参加 			講義 演習	(8)	岡原 幸代	事前学習も含めて問題意識をもつ	
事前課題	加齢による生理的变化についての学習								
評価計画方法	臨地実習の援助を総合的に評価表で評価								
テキスト参考図書	既習したすべてのテキスト								
備考									

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0706	曜日時間	1～2月
授業科目	老年看護学実習Ⅱ						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	臨地実習
担当教員	岡原 幸代						
授業目的	老年期の生活に機能障害が及ぼす影響を理解し、対象に応じた看護が実践できる。						
中核	医療を受ける高齢者の生活行動再構築						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の生活を理解する。 2. 老年期の機能障害の特徴を理解する。 3. 機能障害がそれぞれに影響し、関連しあうことを理解する。 4. 対象の健康上の問題を明らかにする。 5. 対象の看護上の課題に対し援助する。 6. 保健医療チームの連携の実際を知り、看護の機能と役割を理解する。 7. 自己の課題を明らかにする。 						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
		<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨地実習における留意点 ・ 記録指導・技術指導 	講義 演習	(8)	岡原 幸代	事前学習も含めて問題意識をもつ	
12 日間	<p>老年期の生活と健康障害の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活行動の把握 ・ 生活史の理解と信念・信条・生き方・価値観の尊重 <p>老年期の機能障害の特徴の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢による適応力・防衛力・予備力・回復力の低下と知能の変化 <p>機能障害の関連性の理解・影響の波及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 機能障害の関連性と生活への波及 <p>看護上の問題の明確化と援助の実施</p> <p>援助の計画・実施・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別性を尊重した援助・二次障害の予防 ・ 残存機能維持・廃用症候群への援助 <p>保健医療チームの連携の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携の実際と看護の機能・役割を知る ・ カンファレンスへの参加 <p>自己の課題を明らかにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りと自己の課題の明確化 	臨地実習	90	各担当教員			
事前課題	高齢者に起こりやすい機能障害についての学習						
評価計画方法	臨地実習の援助を総合的に評価表で評価						
テキスト参考図書	既習したすべてのテキスト						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0807	曜日時間	通年
授業科目	成人看護学実習Ⅰ						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	3年次	授業形態	臨地実習
担当教員	佐野 洋子						
授業目的	命の根源に関する機能を障害した対象を理解し、自然治癒力を高め生活を整えていく援助を学ぶ。						
中核	セルフマネジメント						
授業目標	(内部環境調節機能障害、身体防御機能障害) 1. セルフマネジメントを必要とする患者の特殊性を理解する。 2. 健康に向かう対象の持てる力を捉えることができる。 3. 対象が、セルフケアを継続するうえで、困難なことを明確にする。 4. 対象の思いを尊重した目標を設定し、必要な援助を考える。 5. 対象がセルフマネジメントを行うために必要な生活調整を行うことができる。 6. 多職種との連携に必要な知識と具体的方法が分かる。 7. 体験を振り返りセルフマネジメントを必要とする対象にとっての看護の意義を明らかにする。						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
		対象の生活と問題の予測・修正の学習をする ・事前オリエンテーション ・自己の科目目標を決定する ・効果的な自己学習を検討する ・病棟の特徴を理解する	講義・グループワーク	(8)	佐野 洋子	事前学習も含めて問題意識をもつ	
	12日間	病棟の一日の流れと病棟の特徴を知る 潜在的な問題と現象との関連についてとらえる 体内環境に問題のある対象の全体像を把握する 健康を障害した対象のライフサイクルを経過を理解する 回復するための必要条件からその人の思いをとらえる 自力で生活調整が困難な部分を理解する 生活の調整方法を理解する 継続したセルフマネジメントへの援助を行う 家族と連携した援助を行う 対象を支える家族への援助を実際の看護師の関わりから学ぶ カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深める	臨地実習	90	各担当教員		
終了後課題	受け持ち患者に必要なレポート						
評価計画方法	臨地実習の援助内容・態度を評価表で評価						
テキスト参考図書	既習したすべてのテキスト						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0808	曜日時間	通年
授業科目	成人看護学実習Ⅱ						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	3年次	授業形態	臨地実習
担当教員	佐野 洋子						
授業目的	生命に直結する物質のやり取りを障害した対象を理解し、危機的状況に応じた生活を整えていく援助を学ぶ。						
中核	予測と回避						
授業目標	<p>(呼吸機能障害、循環機能障害、消化・吸収機能障害、栄養代謝機能障害)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の危機的状態にある対象の特殊性が理解できる。 2. 生命の危機的状態にある対象の思いや、不安を受け止めることができる。 3. 治療や機能障害による問題を予測し、回避するために、情報をアセスメントできる。 4. 急激な身体機能の変化に応じた援助ができる。 5. 苦痛のコントロールができる。 6. 体験を振り返り、生命の危機的状態にある対象ではなぜ予測と回避が必要か明らかにできる。 						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
		<p>対象の生活と問題の予測・修正の学習をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前オリエンテーション ・自己の科目目標を決定する ・効果的な自己学習を検討する ・病棟の特徴を理解する 	<p>講義</p> <p>グループワーク</p>	(8)	佐野 洋子	事前学習も含めて問題意識をもつ	
		<p>病棟の一日の流れと病棟の特徴を知る</p> <p>物質のやり取りが生命に直結することを理解する</p> <p>生命の危機的状態にある対象を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体像を把握する・立体像を把握する ・外科的侵襲を受ける対象を把握する ・救命処置を受ける対象を把握する ・ターミナル期にある対象を理解する <p>生命の危機的状態にある対象の問題点を抽出する</p> <p>急激な状態の悪化を予測した援助を理解する</p> <p>対象の身体的苦痛を回避する援助を行う</p> <p>対象の精神的苦痛を回避する援助を行う</p> <p>生命維持にむけた医療チームの連携を理解する</p> <p>生命の危機的状態にある対象の意思決定を支援する援助を理解する</p> <p>対象の回復過程に応じた援助を理解する</p> <p>死生観を深める</p> <p>カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深める</p>	<p>臨地実習</p>	90	各担当教員		
終了後課題	受け持ち患者に必要なレポート						
評価計画方法	臨地実習の援助内容・態度を評価表で評価						
テキスト参考図書	既習したすべてのテキスト						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0809	曜日時間	通年
授業科目	成人看護学実習Ⅲ						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	3年次	授業形態	臨地実習
担当教員	佐野 洋子						
授業目的	生活行動に関わる機能を障害した対象を理解し、対象のセルフケアの援助を学ぶ。						
中核	回復の予測とセルフケアの再獲得						
授業目標	(性・生殖機能障害、運動機能障害、脳・神経機能障害、感覚機能障害) 1. 生活機能が障害されている対象の特殊性が理解できる。 2. 生活の変化を余儀なくされた対象の思いに寄り添う。 3. 対象が、セルフケア再獲得するうえで、必要な援助を明確にする。 4. 対象が障害と向き合い、生活を主体的過ごせるように援助する。 5. 退院支援における他職種連携を知る。 6. 体験を振り返りセルフケア再獲得を支えるための看護の意義を明らかにする。						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
		対象の生活と問題の予測・修正の学習をする ・事前オリエンテーション ・自己の科目目標を決定する ・効果的な自己学習を検討する ・病棟の特徴を理解する	講義・グループワーク	(8)	佐野 洋子	事前学習も含めて問題意識をもつ	
	12日間	病棟の一日の流れと病棟の特徴を知る 生活行動に障害のある対象の全体像を理解する 対象の日常生活力をアセスメントする 生活行動に障害がある対象の機能障害を理解する 生活行動に障害のある対象特性を捉える 日常生活行動に障害のある対象の日常生活上の規制が分かる 自力で生活調整が困難な部分を理解する セルフケアを向上させる方法を理解する セルフケアに必要な生活指導が理解できる 対象を支える職種の種類や役割について理解する 地域で活用できる社会資源を理解する 継続看護と他職種との連携の必要性を理解する カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち患者の看護内容について情報交換し理解を深める	臨地実習	90	各担当教員		
終了後課題	受け持ち患者に必要なレポート						
評価計画方法	臨地実習の援助内容・態度を評価表で評価						
テキスト参考図書	既習したすべてのテキスト						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	0905	曜日時間	通年
授業科目	母性看護学実習						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	3年次	授業形態	臨地実習
担当教員	森岡 弓恵						
授業目的	周産期にある女性・子どもとその家族を看護の対象とし、対象が健康を維持・増進し新しい役割を獲得していくために必要な看護について学ぶ。						
中核	命の誕生を支える援助						
授業目標	1. 妊産褥期及び新生児期にある対象とその家族を理解する。 2. 妊産褥期及び新生児期にある対象とその家族に適した看護が実践できる。 3. 地域社会における保健・医療・福祉との連携、継続看護における看護の役割・責任について理解することができる。 4. 対象や家族との関わりの中で、生命の尊厳や自己の母性・父性の意識を深めることができる。						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	12日間	オリエンテーション ・病院・保健センターにおける留意点 ・記録指導 ・個別指導	講義 演習	(8)	森岡 弓恵	事前学習も含めて問題意識をもつ	
		1. 妊娠期における看護の役割 ・妊娠の生理 妊婦と胎児のアセスメント ・新しい家族を迎える妊婦と家族の心理・社会的変化と看護 ・妊娠期の健康維持のためのセルフマネジメント 2. 分娩期における看護の役割 ・分娩の生理 産婦と胎児のアセスメント ・産婦のニーズ・家族の心理 3. 産褥期における看護の役割 ・産褥の生理 褥婦のアセスメント ・褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護 ・母親になること 母子相互作用 ・母乳育児と看護 4. 新生児期における看護の役割 ・新生児の生理 新生児のアセスメント ・新生児期のケア 5. 対象把握に必要な情報の収集・分析・看護上の課題の明確化 6. 対象に適した援助目標・援助計画の立案・援助の実際 7. 保健・医療・福祉の連携と看護の役割・継続看護の理解 8. 周産期母子が地域で活用できる制度・施策・社会資源の理解 9. 体験した母性看護を通して母性観や父性観、生命観の構築	臨地実習	60	担当教員	病院	
			臨地実習	30		保健センター	
事前課題	実習要項を熟読し、必要な内容について自己学習を行う（知識と技術）						
評価計画方法	詳細に関しては実習要項を参照						
テキスト参考図書	・小林泰江他編：ナースング・グラフィカ①②③ ・森 恵美他著：母性看護学概論・母性看護学各論 ・病気がみえるvol.10 産科			メディカ出版 医学書院 メディックメディア			
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1004	曜日時間	通年
授業科目	小児看護学実習						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	3年次	授業形態	臨地実習
担当教員	上原 由加里						
授業目的	小児期の生活に機能障害が及ぼす影響を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。						
授業の中核	すべての健康レベルの子どもの成熟過程を支える援助						
授業目標	小児看護学実習Ⅰ 1. 乳幼児期にある健康な小児の日常生活を理解できる。 2. 小児の成長発達を個別的にとらえることができる。 3. その児の成長発達段階に応じた日常生活の援助を学ぶ。 4. 小児の健康維持や事故防止について理解できる。 小児看護学実習Ⅱ 1. 小児外来の対象である児とその家族を理解できる。 2. 小児外来の看護活動の実際を理解できる。 3. 外来におけるチーム医療を理解できる。 小児看護学実習Ⅲ 1. その児（者）が過ごす入院生活を理解できる。 2. 機能障害が成長・発達に及ぼす影響を理解し、日常生活を調整する看護の実際を学ぶ。 3. 人格を尊重した態度で対象と関わることができる。 4. 長期にわたる療養が家族生活に及ぼす影響を学ぶ。 5. 保健医療チームにおける看護の役割を理解できる。 6. 家族を中心とした地域連携を学ぶ。						
	授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考
授業の内容と方法	12日間	オリエンテーション ・臨地実習の留意点 ・小児期の生活、保育園実習について、病院実習について ・これからともに実習するグループで、臨地実習場について、教員あるいは前グループより情報を得る ・小児看護学での自分の実習目標を立案し、事前にどんなことを学習していくかなど計画を立てる	講義 グループワーク	(8)	上原 由加里	事前学習も含めて問題意識をもつ	
		・乳幼児期にある健康な小児の日常生活を知る ・成長発達段階、小児の発達を個別的にとらえる ・発達段階に応じた日常生活援助を実施し振り返る ・健全な成長発達を促すための健康維持と事故防止について ・子供や家族を支えるための援助や学んだことなどについてカンファレンスを行う		30		保育園	
		・小児外来に来院した児と家族への援助を見学する ・小児外来活動の実際を見学する ・外来におけるチーム医療、病棟との連携を申し送りなどで見学する ・NICUにおける看護の実際を見学する ・外来看護師の役割や学んだことなどカンファレンスをする ・受け持ち児（者）の機能障害の特徴を理解する	臨地実習	30	各担当教員	外来	
		・児（者）の機能障害の種類・程度、原因・病態、生活に及ぼす影響を知る ・受け持ち児（者）と家族の関わりを通して、成長発達を支える援助方法について学ぶ ・障害に応じたコミュニケーションを実施する ・自分の援助を振り返り、次に繋げる ・地域との連携、児や家族に関わるすべての職種との連携を見学する ・カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち児の看護内容について情報交換し理解を深める		30		病棟	
終了後課題	受け持ち児に必要なレポート						
評価計画方法	臨地実習の援助内容・態度を評価表で評価						
テキスト参考図書	小児看護学で既習したすべてのテキスト						
備考							

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1105	曜日時間	通年
授業科目	精神看護学実習						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	3年次後期	授業形態	臨地実習
担当教員	細山田 美雪						
授業目的	生活に精神機能障害が及ぼす影響を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎能力を修得する。						
中核	対人関係構築のプロセス						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活を理解できる。 2. 機能障害の特徴を理解できる。 3. 対象の看護上の課題を見つけ、援助できる。 4. 援助を通して、自己洞察ができる。 5. チーム医療における看護の役割を理解できる。 6. 専門職業人として倫理に基づいた行動ができる。 						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
		オリエンテーション ・臨地実習における留意点 援助指導、実習記録指導	講義 演習	(8)	細山田 美雪	事前学習も含めて問題意識をもつ	
	12 日 間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活環境を理解する 2. 看護上の問題を見つけ援助する <ol style="list-style-type: none"> 1)ヘンダーソンの看護の視点に基づき、アセスメントを 2)機能障害、生活への影響を理解し、看護上の問題を明らかにする 3)看護上の問題に対し援助を行う 3. レクリエーションの実施 4. プロセスレコードの活用（自己洞察） 5. チーム医療を理解する <ol style="list-style-type: none"> 1)チーム医療での看護の役割 2)社会復帰へ向けた援助 3)カンファレンスへの参加 6. 倫理に基づいた行動をとる 	臨地実習	90	各担当教員		
事前課題	実習要項を基に精神看護に必要な事前学習						
評価計画方法	臨地実習の援助内容・態度を評価表で評価						
テキスト 参考図書	既習したすべてのテキスト						
備考							

統合分野

- 在宅看護論
- 看護の統合と実践
- 臨地実習

科目区分	統合分野			科目番号	1201	曜日時間	不定期
授業科目	在宅看護概論						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義
担当教員	東 直子						
授業目的	在宅看護の概要を理解する。						
中核	継続看護						
授業目標	1. 在宅看護の必要性を理解できる。 2. 地域で生活している在宅看護の対象とその家族の特徴が理解できる。 3. 在宅看護の目的と役割、機能が理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間			備考
	15	I. 在宅看護が必要とされる背景とその根拠 社会的背景、在宅医療・介護に関する制度、対象のニーズ II. 療養の場の移行に伴う看護 退院支援・退院調整のプロセス・在宅療養成立の条件 意志決定支援・退院調整に関わる職種と役割（多職種連携） III. 在宅看護の提供方法・訪問看護制度の理解 健康保険法・介護保険法・高齢者の医療に関する関係法規等 訪問看護サービスの仕組みと提供 利用開始までの流れ・サービスの内容・展開・管理、経営 訪問看護の変遷・制度の課題 IV. 在宅におけるチームケア 多職種連携・協働 チームケアの意義 V. ケアマネジメント・ケースマネジメント 考え方・プロセスとその実際 VI. 在宅看護の対象理解と看護の役割 療養者の特徴とその支援（安全管理） 家族、介護者としての家族の特徴とその支援 介護負担とレスパイトケア VII. 在宅看護における看護師の役割と目的 VIII. 在宅ケア制度のあゆみと今後の課題 IX. 評価・まとめ	講義 ペアワーク 個人ワーク	30	東 直子	科目ガイダンス	
終了後課題	在宅看護の概要についてまとめる（提出方法および体裁等については授業で説明）						
評価計画方法	筆記試験80% 課題評価・授業態度(グループワーク等)20%（別紙配布）						
テキスト参考図書	櫻井尚子他編：ナーシング・グラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版 参考) 河原加代子著：統合分野 在宅看護論, 医学書院 参考) 医療情報科学研究所：公衆衛生がみえる 2020-2021, メディックメディア						
備考	リフレクションノートおよびポートフォリオ用のクリアファイル等は各自準備すること						

科目区分	統合分野			科目番号	1202	曜日時間	不定期
授業科目	在宅看護援助論 I						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	東 直子						
授業目的	在宅における看護師の役割を理解する。						
中核	自己決定支援						
授業目標	1. 在宅看護における自己決定支援の必要性が理解できる。 2. 在宅で直面する倫理的課題から、自己の死生観を探求できる。 3. 在宅で終末期を過ごす療養者と家族の特徴と看護が理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	I. 在宅看護における様々な倫理的課題と権利擁護 II. 在宅看護における倫理的課題 難病療養者（ALS療養者）人工呼吸器装着と自己決定支援 ACPの実際 自己の価値観の探求・多様な価値観の探求 III. 在宅で終末期を迎える療養者の特徴と看護 症状マネジメント・緩和ケアの実際（精神的安寧） IV. 在宅で終末期を迎える家族の特徴と看護 看取りの看護・家族へのグリーフケア V. まとめ・評価	講義 ペアワーク ディベート	16	東 直子	科目 ガイダンス DVD 「選択」 難病講演会	
終了後課題	レポート「自己の死生観」 1200字以上						
評価計画方法	筆記試験80% 課題評価・授業態度(グループワーク等)20% (別紙配布)						
テキスト参考図書	櫻井尚子他編：ナースング・グラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版 参考) 河原 加代子著：統合分野 在宅看護論, 医学書院						
備考	リフレクションノートおよびポートフォリオ用のクリアファイル等は各自準備すること						

科目区分	統合分野			科目番号	1203	曜日時間	不定期
授業科目	在宅看護援助論Ⅱ						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義
担当教員	馬越脇 直子						
授業目的	在宅看護に必要な看護技術と対象の状況や状態に応じた看護が理解できる。						
中核	生活の場における援助の応用						
授業目標	1. 在宅看護の実際を理解できる。 2. 生活を支える在宅看護技術を理解できる。 3. 在宅療養者の状態・状況に合わせた看護が理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	I. 在宅看護の展開について II. 生活を支える在宅看護技術 食べること／トイレに行くことを支援する きれいにすること／動くことを支援する III. 医療管理を必要とする在宅看護技術 経管栄養法(胃瘻・中心静脈栄養法) 膀胱留置カテーテル／ストーマケア 酸素療養(非侵襲的陽圧換気・人工呼吸器管理) 薬物管理(服薬管理(麻薬管理)・輸液管理) 褥瘡管理【デモンストレーション】 褥瘡処置 IV. まとめ・評価	講義	16	馬越脇 直子		
	8	I. 在宅看護の実際 (介入時期の特徴) II. 在宅療養者の状態・状況に合わせた看護 難病のある療養者への看護 小児の療養者への看護 精神障害のある療養者への看護 独居療養者/認知症療養者への看護 機能低下予防・再発予防が必要な療養者への看護 リハビリテーション期にある療養者への看護 終末期にある療養者への看護 死後の処置【デモンストレーション】 III. まとめ・評価	講義	16			
終了後課題	各講師の指示に従う						
評価計画方法	筆記試験100% (各50%)						
テキスト 参考図書	櫻井尚子他編：ナーシング・グラフィカ在宅看護論① 地域療養を支えるケア, メディカ出版 参考) 河原 加代子著：統合分野 在宅看護論, 医学書院						
備考	リフレクションノートおよびポートフォリオ用のクリアファイル等は各自準備すること						

科目区分	統合分野			科目番号	1204	曜日時間	不定期
授業科目	在宅看護援助論Ⅲ						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義・演習
担当教員	東 直子						
授業目的	在宅における看護過程の展開を理解する。						
中核	在宅看護の展開の視点						
授業目標	1. 事例の状況に応じて、在宅看護における一連の看護過程が理解できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	I. 対象理解とアセスメントの視点 事例：筋萎縮性側索硬化症の療養者と家族 II. 全体像の把握 療養者と家族の健康と生活 III. 看護上の問題の明確化 IV. 看護計画の立案 自立・自律支援・社会資源の活用と調整 V. 実施・評価 VI. 事例に応じた援助の実践 訪問時マナーの実践(訪問から退室まで) 吸引 VII. まとめ・評価	講義 GW 学内実習	16	東 直子	科目ガイ ダンス	
終了後課題	一連の看護過程に関連する用紙を提出						
評価計画方法	筆記試験50% 看護過程への取り組み・授業態度50% (別紙配布)						
テキスト参考図書	櫻井尚子他編：ナースング・グラフィカ在宅看護論①地域療養を支えるケア, メディカ出版 参考) 河原加代子著：統合分野 在宅看護論, 医学書院						
備考	リフレッシュノートおよびポートフォリオ用のクリアファイル等は各自準備すること 看護過程の展開は学校指定の用紙を使用する						

科目区分	統合分野			科目番号	1301	曜日時間	金曜日
授業科目	看護管理・医療安全						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	3年次前期	授業形態	講義
担当教員	遠矢 明子 ・ 竹之下 直人						
授業目的	1. チーム医療における他職種との協同の中で、看護職としてのリーダーシップおよびメンバーシップについて学び、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 2. 医療安全及び医療事故防止策を学び、医療安全に対する基礎的知識を学ぶ。						
中核	医療事故の防止						
授業目標	1. 看護管理における看護としてのマネジメントが理解できる。 2. マネジメントに必要な知識と技術が理解できる。 3. 看護管理に期待されるリーダーシップが理解できる。 4. 医療事故回避のための方法とルールを遵守する必要性を理解できる。 5. 看護業務における医療事故の発生要因と防止対策の方法を理解できる。 6. 対象に日常生活における危険を回避するための方法を考えることができる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	I. 看護を取り巻く医療の動向 II. 看護管理の概念 III. 看護管理の実際 目標管理・看護の質と評価・人材管理と人材育成 看護業務管理 看護職員の労働安全衛生・労働条件調整 医療安全管理体制の整備 看護の経営参画 IV. 看護管理とマネジメント マネジメントに必要な知識と技術 リーダーシップとメンバーシップ V. 他職種との連携 VI. まとめ・評価	講義	16	遠矢 明子		
	8	I. 医療事故とは 医療安全施策と医療の質の評価 II. 医療事故のメカニズム 看護における安全対策 看護事故の種類と安全対策 看護と法による規制と安全 看護事故の種類と安全対策 事故発生時の看護師の対応 III. 事故事例から防止策の検討 注射・輸血・経管栄養・転倒転落・誤飲・異食 入浴中の事故 IV. 看護学生の実習と安全対策 V. まとめ・評価	講義 ワーク	16	竹之下 直人		
終了後課題	事例に対するKYTレポート						
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト 参考図書	上泉 和子著：看護の統合と実践①看護管理，医学書院 川村 治子著：看護の統合と実践②医療安全，医学書院						
備考	リフレクションノートおよびポートフォリオ用のクリアファイル等は各自準備すること						

科目区分	統合分野			科目番号	1302	曜日時間	木曜日
授業科目	災害看護						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義
担当教員	吉松 高志						
授業目的	災害看護に必要な基礎的知識を習得し、看護の実際と役割を学ぶ。						
中核	災害時の救命看護						
授業目標	1. 国内・海外の災害の現状を理解する。 2. 災害発生時の対応や体制について理解する。 3. 災害のサイクルにおける災害医療や看護の役割を理解する。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	8	I. 日本と世界の災害の現状 II. 災害医療と災害看護とは 災害の定義、種類 災害に関連する法律 災害の種類による被害・疾病の特徴 災害による被災者および救護者の心理 III. 災害サイクルと各サイクルに応じた看護の実際 災害看護の定義・特徴 災害サイクルに応じた看護の役割 (初期・中期・静穏期) 災害時に必要な看護技術 (トリアージ・致死的外傷に対する救急処置・搬送) IV. 災害後の発達段階・健康障害に応じた看護 V. 被災者と救済者のこころと身体的ケア VI. まとめ・評価	講義	16	吉松 高志		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	日本赤十字社事業局看護部著：看護の統合と実践③災害看護学・国際看護学，医学書院						
備考							

科目区分	統合分野			科目番号	1304	曜日時間	木曜日
授業科目	国際看護						
単位数	1 単位	時間	15 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義
担当教員	山本 克彦						
授業目的	国際看護の基本理念と国際的にどのような健康問題が課題となっているのかを理解し、国際協力の実際を学ぶ。						
中核	国際的な視点						
授業目標	1. 国際的な視野を持つことの意味を理解する。 2. 国際社会の現状と看護活動の課題を理解する。 3. 国際看護活動の対象と国際機関を学ぶ。 4. 異文化を理解する方法を学ぶ。 5. 国際看護活動の実際を理解する。						
授業の内容と方法	回	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	8	I. 国際看護とは 活動の場や組織、方法の理解 II. 国際社会の現状と看護活動の課題 世界の歴史から国際協力の現状 III. 国際看護活動の現状とその対象 海外の看護活動の現状 日本の外国人に対する看護の現状 IV. 世界の国際看護活動の組織 海外の国際看護活動機関とその実際 日本における国際看護活動機関とその実際 V. 日本と異なる文化の理解 異文化とは(日本と海外の相違) 方法の検討(言葉の壁・習慣の相違) VII. 今後の国際社会の発展 VIII. 評価		講義	16	山本 克彦	
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	日本赤十字社事業局看護部著：看護の統合と実践③災害看護学・国際看護学，医学書院						
備考							

科目区分	統合分野			科目番号	1303	曜日時間	通年
授業科目	臨床看護の実践						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	3年次	授業形態	講義・演習
担当教員	佐藤 麻希						
授業目的	既習の知識・技術・態度を統合し、事例の状況に応じた適切で安全な看護を提供する能力を養う。						
中核	流動的環境の中での看護						
授業目標	1. 複数受持ち患者の看護展開に必要な視点を理解できる。 2. 多重課題発生時の優先度の判断とその対応策について理解できる。 3. 対象の状況に応じて、優先順位を考慮した援助を安全に実施できる。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間			備考
	15	I. チーム医療のマネジメント リーダーシップ・メンバーシップ 1日の業務の組み立て 多重課題への対処 優先順位の決定 II. 複数患者の事例展開 対象理解 援助計画の立案 優先順位の決定 チームでの連携 III. 学内実習 点滴静脈内注射 点滴静脈内注射挿入中・臥床患者の寝衣交換 IV. まとめ・評価	講義 ワーク	30		佐藤 麻希	科目ガイ ダンス
終了後 課題	リフレクションノート						
評価計画 方法	筆記試験・学内実習						
テキスト 参考図書	宮脇美保子編：基礎看護学④臨床看護総論、メジカルフレンド社						
備考	リフレクションノートおよびポートフォリオ用のクリアファイル等は各自準備すること						

科目区分	統合分野			科目番号	1305	曜日時間	通年
授業科目	在宅看護論実習						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	3年次	授業形態	臨地実習
担当教員	東 直子						
授業目的	地域で生活しながら療養している療養者とその家族を理解し、生活の場で展開される看護の実際を学ぶ。						
中 核	継続看護						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活しながら療養している療養者とその家族を理解する。 2. 療養者とその家族の状況に応じて、生活の場で展開される看護を理解する。 3. 地域での療養生活を支援する社会資源とチームケアの実際を理解する。 4. 継続看護の必要性と看護師の役割を考察する。 						
授業の内容と方法	日	授業内容		授業方法	時間	担当	備考
	12日間	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習における留意点 ・記録指導 ・技術指導 <p>I. 在宅看護の対象 地域で生活しながら療養する対象とその家族</p> <p>II. 在宅看護の実際 生活の場で展開される援助 訪問看護ステーションの目的・役割・機能</p> <p>III. 在宅支援の実際 地域包括支援センターの目的・役割・機能 地域での療養を支えるシステム</p> <p>IV. 保健・医療・福祉の連携および協働の実際</p> <p>V. 継続看護の実際</p>		臨地実習	90	各担当教員	訪問看護ステーション2週間・地域包括支援センター1週間
終了後課題	「継続看護の重要性と看護師の役割」のテーマで1200字レポート提出						
評価計画方法	臨地実習の援助を総合的に評価表で評価						
テキスト参考図書	既習したすべてのテキスト						
備 考							

科目区分	統合分野			科目番号	1305	曜日時間	通年
授業科目	看護の統合と実践実習						
単位数	2 単位	時間	90 時間	開講時期	3年次後期	授業形態	臨地実習
担当教員	佐藤 麻希						
授業目的	既習の知識・技術・態度を統合し、対象の状況に応じた看護が実践できる基礎的能力を身につける。						
中核	流動的環境でのチーム医療						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 優先順位を考え複数受け持ち患者に必要な援助ができる。 2. 夜間帯における患者の様子を知り、看護師の役割が理解できる。 3. チーム内におけるメンバーシップ、リーダーシップが理解できる。 4. 病棟管理および医療安全対策の実際が理解できる。 5. 看護の質向上に向け、専門性を発展させていくことの重要性が理解できる。 						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	12日間	<p>I. 複数受け持ち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 複数受け持ち患者に、病棟の方針にそって課題の把握 2) 優先順位を考慮した援助の実施 3) 病棟における円滑な業務体制の理解 <p>II. 看護管理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病棟管理 <ul style="list-style-type: none"> ・物的管理・人的管理 2) 他職種者との調整 3) 入院患者の管理 4) 病院管理（安全管理体制） <p>III. 夜間における看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 夜間の看護師の動き 2) 夜間の患者の状況理解 3) 夜間の病棟体制 4) 急変体制（看護部体制） <p>IV. 臨地実習の総まとめ</p>	臨地実習	90	各担当教員		
終了後課題	「看護専門職としての自己の在り方と今後の課題」のテーマで1200字レポート提出						
評価計画方法	臨地実習の援助を総合的に評価表で評価						
テキスト参考図書	既習したすべてのテキスト						
備考							